

土屋義人・加茂幸介・六車 熙 3 教授の御退官によせて

土屋義人先生、加茂幸介先生、六車熙先生には、平成 6 年 3 月 31 日をもって京都大学を停年退官され、京都大学名誉教授とされました。三先生には防災研究所における研究と発展に多大のご尽力をいただき、そのご功勞に対しまして心から感謝の意を表したいと思います。

土屋義人先生は昭和 35 年 8 月 1 日から京都大学防災研究所の併任非常勤講師とされましたが、翌 36 年 4 月 1 日には名古屋工業大学から防災研究所助教授にご就任されました。昭和 42 年 10 月 1 日からの 1 年間は工学部へ移されましたが、この間も併任助教授として防災研究所の研究に携わっていただきました。1 年後の昭和 43 年 10 月 1 日には防災研究所教授にご就任になり、以来ご退官の日まで、研究と教育ならびに防災研究所の管理・運営に大変なご尽力をいただきました。平成元年 5 月 1 日からは 2 年間にわたって防災研究所所長として研究所の発展に尽されました。平成 2 年 6 月に発足した附属地震予知研究センターもひとえに先生のご指導とご尽力の賜であるといえますし、また、中国・インドネシアとの国際共同研究も先生の所長ご就任期間中に発足し、以来ますます活発に進展されてきております。このほか、附属大湊波浪観測所長として昭和 44 年 4 月から、多少の中断はありますがご退官の平成 6 月 31 日まで、附属白浜海象観測所長としては昭和 43 年 12 月から、こちらも 2 回の中断はありますが、平成 4 年 9 月 30 日まで長年にわたって両観測所における観測研究と運営に尽してられました。先生は有限振幅波の理論と波力、海岸堤防の越波防止機能、非線形海岸波浪の変形、異常波浪の予知、海岸漂砂力学、海浜変形の予測、海岸侵食制御論、高潮の予知、波浪・高潮の極値、風水害の変遷史など海岸水理学、海岸工学、自然災害科学に関する広範な分野にわたる研究に携わられ多くの成果を挙げられました。とくに安定海浜工法とその理論は適用性が高く評価されております。また、大湊における T 型栈橋の設置とこれによる観測、ならびに田辺中島における高潮観測塔の新設は先生の大変なご尽力により実現できたものであることに改めて思いを致し、これらによって今後海岸災害の研究が飛躍的に発展することを期待したいと思います。

加茂幸介先生は昭和 34 年 4 月 1 日に京都大学理学部助手に採用され、その 4 年後の昭和 38 年 4 月 1 日から防災研究所の併任助手になられ、以後桜島火山の研究に着手されることになりました。昭和 44 年 8 月 1 日には附属桜島火山観測所助教授にご就任になり、同 50 年 5 月 1 日からは同観測所長として、以来ご退官の平成 6 年 3 月 31 日まで、火山噴火予知の研究と観測所の運営・発展に力を尽してられました。先生はこの間、全国的な立場からも火山噴火予知計画の推進のためにその中心にあって重責を果たしてられました。火山学における先生の多くの業績の中でも、特筆すべきは何と云っても桜島火山を中心に鹿児島周辺に地震をはじめとする各種の観測網を設置充実され、桜島火山の噴火機構を究明し、その噴火予知に成功されたことでありましょう。また、桜島火山からの噴出物と始良カルデラおよびその周辺の地殻変動との関係について考察され、マグマの供給システムを解明することにより長期予測の指針も与えられました。玄武岩質火山の噴火に伴う溶岩流をシミュレーションによって予測する手法を確立されたことは、ハザードマップの作成に大いに役立つところとなり、火山災害の軽減に大きな貢献をなさいました。先生のこれらのご研究の成果がいまインドネシアとの火山噴火予知に関する国際共同研究として発展させられつつあり、「国際防災の十年」における火山災害の軽減の実現に大きく寄与することになると期待されます。

六車熙先生は昭和 31 年 4 月に京都大学工学部講師とされ、以来コンクリート系構造を中心として耐震問題に取り組んでられました。プレストレストコンクリート構造の耐震設計体系の確立、杭基礎構造の耐震性の向上、鉄筋コンクリート構造靱性設計など、建築・土木工学の分野に共通した構造工学の広い分野に亘る研究に従事されて、数々の輝かしい研究業績を挙げてられました。先生には昭和 60 年 4 月 1 日から防災研究所の研究担当をしていただいていたのですが、平成 4 年 7 月 1 日からは地盤震害研究部門の教授にご就任いただき、先生の永年にわたるご研究の成果と経験を生かして耐震工学の研究発展のためにご尽力を

賜りました。先生はまた、平成5年4月1日から京都大学体育指導センターの所長として、同センターの管理と運営に力を注いでこられました。

いま、京都大学は、大学院重点化、独立大学院の設置など大きな変革の時期を迎えており、防災研究所も自然災害研究のさらなる推進を目指して改めて将来のあるべき姿を打ちたて、その実現に向かって努力をなすべき時期にあると考えられます。このような重要な時期に、深い学識と豊かな経験をお持ちの三人の先生方を一時に研究所からお送りすることは誠に寂しい限りではありますが、今後とも後輩のために、そして防災研究所のこれからの一層の発展のために、旧倍のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

最後に土屋義人先生、加茂幸介先生、六車熙先生にはご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、またこれまでとは違った場所でのご活躍を期待致します。

平成6年4月

京都大学防災研究所所長

田 中 寅 夫



土屋義人教授

土 屋 義 人 教 授 略 歴

昭和5年6月12日	長野県飯田市に生まれる
24年3月	飯田高等学校卒業
25年4月	名古屋工業大学土木工学科入学
29年3月	同上卒業
29年4月	京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻入学
31年3月	同上修了
38年9月	京都大学工学博士 学位論文：限界掃流力とその水工学上への適用に関する研究
31年3月	名古屋工業大学土木工学科助手
33年4月	同講師
36年4月	京都大学防災研究所助教授
42年10月	京都大学工学部助教授
43年10月	京都大学防災研究所教授
43年12月	京都大学大学防災研究所附属白浜海象観測所長（平成5年3月まで）および同大渦波浪観測所長（平成4年9月まで）
50年7月	国際連合国連開発計画（UNDP）技術協力専門家としてインドネシア公共事業省水工研究所（現、研究開発庁水資源開発研究所）に派遣（昭和51年7月まで）
51年11月	西オーストラリア大学客員教授工学部（昭和52年7月まで）
53年7月	国際連合国連開発計画（UNDP）技術協力専門家としてインドネシア公共事業省水工研究所（現、研究開発庁水資源開発研究所）に派遣（昭和53年9月まで）
60年6月	西オーストラリア大学客員教授工学部（昭和60年9月まで）
61年9月	インドネシア公共事業省研究開発庁水工研究所（現、研究開発庁水資源開発研究所）に技術専門家（インドネシア政府の要請）として派遣（昭和61年10月まで）
平成元年5月	京都大学防災研究所長および京都大学評議員（平成3年4月まで） 京都大学防災研究所附属水資源研究センター長，同防災科学資料センター長，および同都市施設耐震システム研究センター長（平成3年4月まで）
2年4月	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター長（平成3年4月まで）
6年3月	京都大学停年退官
6年4月	京都大学名誉教授 名城大学教授学部新設準備室

土屋義人教授研究業績

1) 研究論文および論説・講義集

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	(1) 土砂水理学に関する研究		
	a) 地面侵食と土砂生産		
1956	水滴による地面侵食に関する 2, 3 の実験	土木学会論文集, 第35号, pp.55-63.	岩垣雄一
1957	雨水流による土砂の剝離と輸送について	土木学会論文集, 第51号, pp.22-38.	岩垣雄一
	地面侵食に関する 2・3 の水理学的考察	名古屋工業大学報, 第9号, pp.1-9.	
1958	地面侵食に関する 2・3 の水理学的考察	土木学会論文集, 第59号, pp.32-38.	
1961	地面侵食による裸地斜面の終局的粒度分布について	京都大学防災研究所年報, 第4号, pp.163-172.	
1966	差圧計による土砂の沈降分析について	京都大学防災研究所年報, 第9号, pp.417-425.	奥村武信
	蒲田川流域の地形学的特性に関する研究(1)	京都大学防災研究所年報, 第9号, pp.433-444.	矢野勝正・奥村武信
1967	山岳小流域における土砂流出に関する 2・3 の観測について	京都大学防災研究所年報, 第10号B, pp.81-96.	矢野勝正・奥村武信
1969	蒲田川流域の地形地質学的特性に関する研究(3)	京都大学防災研究所年報, 第12号B, pp.311-321.	矢野勝正・沢田豊明
	b) 水ジェットにおける境界層と局所洗掘		
1959	Boundary layer growth in wall jets issuing from a submerged outlet	Proc. 9th Japan. Cong. Appl. Mech., pp.259-264.	Y. Iwagaki
	水門から噴出する Wall Jet による洗掘限界について	京都大学防災研究所年報, 第3号, pp.34-53.	岩垣雄一
1962	滑面水路床の下流端における洗掘限界	土木学会論文集, 第80号, pp.18-29.	
	水門下流部における洗掘限界に関する研究	土木学会論文集, 第82号, pp.21-51.	
1963	鉛直噴流による洗掘限界について	京都大学防災研究所年報, 第6号, pp.278-311.	
	Basic studies on the criterion for scour resulting from flows downstream of an outlet	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., No. 63, pp.1-71.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1965	水門下流部における局所洗掘に関する研究(1)	京都大学防災研究所年報, 第8号, pp.363-377.	岩垣雄一・今村正孝
1967	On the mechanism of the local scour from flows downstream of an outlet	Proc. 12th IAHR Cong., pp. 55-64.	Y. Iwagaki
	c) 限界掃流力と流砂の力学		
1956	限界掃流力に関する基礎的研究(Ⅱ), 砂面上におかれた礫の限界掃流力について	土木学会論文集, 第31号, pp.22-38.	岩垣雄一
1963	On the critical tractive force of graded sand and gravel	Geophysical Papers Dedicated to Professor Kenzo Sassa, pp.621-631.	
	砂礫床面における砂礫の2, 3の特性について	土木学会論文集, 第94号, pp.13-18.	西平福宏
	混合砂礫の限界掃流力について	土木学会論文集, 第98号, pp.1-9.	
	混合砂礫の限界掃流力に関する研究	京都大学防災研究所年報, 第6号, pp.228-253.	
1965	浮遊現象に及ぼす粒度組成の影響に関する実験	京都大学防災研究所年報, 第8号, pp.353-362.	岩垣雄一・矢野洋一郎
1967	水流による砂粒の運動機構に関する実験	京都大学防災研究所年報, 第10号B, pp.97-107.	角野 稔
1968	砂れきの流送機構の確率過程としての特性について	京都大学防災研究所年報, 第11号B, pp.61-73.	矢野勝正・道上正規
1969	Studies on the sand transport in streams with tacers	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol18, Part 3, No. 141, pp.1-16.	K. Yano and M. Michiue
	水流による砂れきの saltation の機構(1)	京都大学防災研究所年報, 第12号B, pp.475-502.	渡戸健介・青山俊樹
	掃流砂れきの saltation に関する実験	京都大学防災研究所年報, 第12号B, pp.491-502.	矢野勝正・青山俊樹
	沖積河川の河床砂れきの特性の変化について	京都大学防災研究所年報, 第12号B, pp.463-473.	道上正規
	Tracer studies on the movement of sand and gravel	Proc. 12th IAHR Cong., pp. B121-129.	K. Yano and M. Michiue
1970	水流による砂れきの saltation の機構(2)—Successive Saltation の理論について—	京都大学防災研究所年報, 第13号B, pp.199-216.	青山俊樹

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	掃流砂れきの運動形態とその力学過程について	第14回水理講演会講演集, pp.13-18.	青山俊樹
	d) 安定河道		
1959	An analysis of the stable cross section of a stream channel	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., No. 29, pp.1-27.	Y. Iwagaki
1962	流路の安定縦断形状に関する研究	京都大学防災研究所年報, 第5号A, pp.192-211.	
	(2) 海岸工学および海岸災害に関する研究		
	a) 波動境界層と波浪減衰		
1961	海底摩擦による波高減衰の基礎的研究 (1)	第8回海岸工学講演会講演集, pp.19-24.	井上雅夫
1964	海底摩擦による波高減衰の基礎的研究 (2)—底面摩擦力の測定について—	第11回海岸工学講演会講演集, pp.62-68.	岩垣雄一・坂井順行
1965	海底摩擦による波高減衰の基礎的研究 (3)—層流境界層方程式の非線形項の影響について—	第12回海岸工学講演会講演集, pp.41-49.	岩垣雄一・陳 活雄
	Basic studies on the wave damping due to bottom friction	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 8, pp.37-49.	Y. Iwagaki and M. Sakai
1966	海底摩擦による波高減衰機構に関する研究—層流境界層の場合—	京都大学防災研究所年報, 第9号, pp.647-665.	岩垣雄一・坂井順行 陳 活雄
	Laminar damping of oscillatory waves due to bottom friction	Proc. 10th ICCE, ASCE, pp.149-174.	Y. Iwagaki
1967	On the mechanism of laminar damping of oscillatory waves due to bottom friction	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 16, Part 3, No. 116, pp.49-75.	Y. Iwagaki and H. Chen
	b) 波圧, 波力および越波		
1962	風洞水槽を用いた海岸堤防の越波に関する研究(1)—風洞水槽の特性と鉛直堤の越波に関する2, 3の実験—	第9回海岸工学講演会講演集, pp.153-158.	岩垣雄一・井上雅夫
1963	由比海岸堤防の越波に関する実験	第10回海岸工学講演会講演集, pp.132-137.	岩垣雄一・井上雅夫
	由比海岸堤防の模型実験について	京都大学防災研究所年報, 第6号, pp.328-337.	岩垣雄一・井上雅夫
1964	海岸堤防の越波防止に関する2, 3の問題	京都大学防災研究所年報, 第7号, pp.387-399.	岩垣雄一・井上雅夫

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1966	On the effect of wind on wave overtopping on vertical seawalls	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 16, No. 105, pp.11-30.	Y. Iwagaki and M. Inoue
1969	有限振幅重複波に関する基礎的研究(1) —せつ動解の境界条件の適合性について—	京都大学防災研究所年報, 第12号B, pp.585-605.	山口正隆
	有限振幅重複波に関する基礎的研究(2) —せつ動解の適合性に関する実験—	京都大学防災研究所年報, 第12号B, pp.607-631.	山口正隆
	せつ動解による有限振幅重複波理論の適用限界について	第16回海岸工学講演会講演集, pp.7-13.	山口正隆
1970	有限振幅重複波に関する基礎的研究(3) —越波のある場合の波圧に関する実験—	京都大学防災研究所年報, 第13号B, pp.391-407.	山口正隆
	Limiting condition for standing wave theories by perturbation method	Proc. 12th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.523-543.	M. Yamaguchi
1971	大口径柱体に作用する波力に関する研究(1)—波圧分布と水位変動特性について—	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.287-304.	山口正隆
	海岸堤防の越波防止効果に関する2, 3の問題	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.361-372.	井上雅夫・岩垣雄一
	斜め入射波による鉛直堤の越波に関する実験的研究	第18回海岸工学講演会論文集, pp.259-264.	井上雅夫
1972	波による円柱の抗力係数および質量係数について	第19回海岸工学講演会論文集, pp.379-383.	山口正隆
1973	柱体に作用する全波力について	第20回海岸工学講演会論文集, pp.25-29.	山口正隆
1974	直円柱に作用する全波力について	土木学会論文集, 第227号, pp.11-21.	山口正隆
	大口径円柱に作用する波圧波力に及ぼす波の非線形性の影響	土木学会論文集, 第229号, pp.41-53.	山口正隆
	大口径柱体に作用する波力に関する研究(2)—波圧波力に及ぼす波の非線形性の影響について—	京都大学防災研究所年報, 第17号B, pp.631-646.	山口正隆
	水平円柱に作用する全波力について	第21回海岸工学講演会論文集, pp.487-492.	山口正隆
	Total wave force on a vertical circular cylindrical pile	Proc. 14th ICCE, ASCE, Vol. 3, pp.1789-1807.	M. Yamaguchi
	c) 浅海における波浪特性と波浪予知		

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1962	秋田海岸の波浪観測について	第9回海岸工学講演会講演集, pp.75-80.	岩垣雄一・樋口明生 吉田幸三・柿沼忠男 井上雅夫
1964	名古屋港および泉佐野海岸における波浪観測について	京都大学防災研究所年報, 第7号B, pp.420-433.	樋口明生・柿沼忠男
1969	A generator of irregular waves and analysis of generated waves	Proc. IAHR Cong., pp. S4-289-292.	Y. Iwagaki and A. Ishida
1971	風洞水槽を利用した不規則波の発生装置 (海岸波浪シミュレータ) とその2, 3の特性について	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.391-406.	山口正隆
	循環式風洞水槽による風波の特性について	第18回海岸工学講演会論文集, p.19-24.	山口正隆
	超音波流速計による波の水粒子速度に関する実験的研究	第18回海岸工学講演会論文集, pp.97-104.	山口正隆
1972	Horizontal and vertical water particle velocities induced by waves	Proc. 13th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp. 555-568.	M. Yamaguchi
1973	日本海沿岸における冬期波浪の協同観測	京都大学防災研究所年報, 第16号A, pp.29-39, および, 日本海沿岸における冬期波浪の観測資料集(1), 京都大学防災研究所年報, 第16号B, pp.555-577.	波浪観測グループ
	長大栈橋を利用した容量型波高計群による波浪観測について	第20回海岸工学講演会論文集, pp.531-534.	山口正隆・芹沢重厚
1974	Wave observations with capacitance-type wave gauge array installed on a long pier	Proc. Inter. Symp. Ocean Wave Meas. & Analysis, ASCE, pp.689-695.	M. Yamaguchi
	恋ヶ浜海岸における波の変形に関する模型実験的研究	京都大学防災研究所年報, 第17号B, pp.607-629.	芝野照夫
1975	有限振幅波理論に基づく波のShoalingについて	第22回海岸工学講演会論文集, pp.59-63.	山口正隆
1976	海岸波浪の変形に伴う波浪の地域分布特性	第23回海岸工学講演会論文集, pp.296-301.	山口正隆・芝野照夫 矢下忠彦
	Wave shoaling of finite amplitude waves	Proc. 15th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.497-506.	M. Yamaguchi
	琵琶湖における波浪観測について	京都大学防災研究所年報, 第19号B-2, pp.361-379.	岩垣雄一・酒井哲郎 山口正隆・芝野照夫 木村 晃・安田孝志 芹沢重厚

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1977	有限振幅波理論による Wave shoaling について	京都大学防災研究所年報, 第20号B-2, pp.483-491.	安田孝志
	Resolving power of wave gauge array installed in Lake Biwa	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 27, No. 247, pp.47-71.	M. Yamaguchi and H. Koyata
	一様風域場における波浪の方向スペクトルの特性について	第24回海岸工学講演会論文集, pp.97-101.	山口正隆・小矢田宏
1979	有限風域場における波浪の数値予知法	第26回海岸工学講演会論文集, pp.96-100.	山口正隆・小矢田宏・渡辺 健
1980	発達過程にある風波の方向スペクトル特性	第27回海岸工学講演会論文集, pp.99-103.	山口正隆
1981	Directional spectra of wind waves in growing stage	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 24, pp.93-104.	M. Yamaguchi
	強風により発生する砕波波列	第28回海岸工学講演会論文集, pp.143-147.	筒井茂明・山下隆男
1982	波のエネルギー分配と砕波過程	第29回海岸工学講演会論文集, pp.125-129.	筒井茂明
	Breaking mechanism of water waves in terms of imbalance in the partition of wave energy	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 32, No. 291, pp.143-170.	S. Tsutsui
	日本海沿岸における異常波浪の数値予知	第29回海岸工学講演会論文集, pp.1-5.	山口正隆・平口博丸
1983	日本海における季節風時の波浪予知(2) 一波浪の数値予知一	京都大学防災研究所年報, 第26号B-2, pp.599-635.	山口正隆・平口博丸
1985	日本海中部沿岸における異常波浪の極値統計と佐渡島遮蔽域の波浪特性	第32回海岸工学講演会論文集, pp.149-153.	近藤浩右・鈴木義和 鹿島遼一
	日本海中部沿岸における波浪の相関予測法	第32回海岸工学講演会論文集, pp.129-133.	鹿島遼一・鈴木義和 近藤浩右・泉 雄士
	スプライン法を用いた海上風推算における気圧データの作成方法	第32回海岸工学講演会論文集, pp.134-138.	安中 正・光田 寧 藤井 健・大下哲則
	波浪予知モデルの日本海への適用	第32回海岸工学講演会論文集, pp.139-143.	平口博丸・山口正隆
	容量式波高計の改良と現地観測への適用	京都大学防災研究所年報, 第28号B-2, pp.549-564.	藤木繁男
1987	波浪推算モデルによる異常波浪の研究	京都大学防災研究所年報, 第30号B-2, pp.663-693.	駒口友章
	台風の停滞時間を考慮した異常波浪の推算	第34回海岸工学講演会論文集, pp.157-161.	駒口友章

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1990	Transformation characteristics of breaking water waves	Proc. NATO Advanced Research Workshop on Wave-Kinematics, pp.509-528.	J. R. Tallent and T. Yamashita
	Generation mechanism of abnormal waves along the Japan coast	Proc. 22nd ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.769-782.	T. Komaguchi and N. Shiraishi
1991	日本海沿岸における異常波浪の予知	海岸工学論文集, 第38巻, pp.111-114.	駒口友章・根本健吉
1992	強風時の現地波浪の碎波特性	海岸工学論文集, 第39号(1), pp.46-50.	河田恵昭・森田達也
1993	日本海西部沿岸における発達初期の季節風による異常波浪の予知	海岸工学論文集, 第40号(1), pp.106-110.	駒口友章
	d) 津波の変形		
1970	高知港の津波に関する模型実験	京都大学防災研究所年報, 第13号B, pp.471-488.	岩垣雄一・中村重久
	Model study of transformation of tsunamis in Urado bay	Proc. 12th ICCE, ASCE, Vol. 3, pp. 2089-2102.	S. Nakamura and Y. Iwagaki
1971	高知港の津波に関する模型実験(2)―津波防波堤の効果と河川流量の影響について―	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.407-413.	中村重久・岩垣雄一
1972	高知港模型における長周期波の特性について	第19回海岸工学講演会論文集, pp.231-235.	中村重久
1973	水門に作用する段波の波圧について	第20回海岸工学講演会論文集, pp.157-161.	中村重久
	On the shock pressure of surge on a wall	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 23, No. 212, pp.47-58.	S. Nakamura
1975	On transformation of tsunami inundating into Osaka bay	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 25, No. 232, pp.37-53.	S. Nakamura
1976	紀伊水道を通過する津波の変形について	第23回海岸工学講演会論文集, pp.454-458.	中村重久
	Transformation of tsunamis in a coastal zone	Proc. 15th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.988-1005.	S. Nakamura H. Higuchi
1984	陸棚における津波のソリトン分裂	東北大学津波防災実験所研究報告, 第1号, pp.41-48.	安田孝志・山下隆男 芝野真次
1988	Extremal statistics of tsunamis in Osaka	Proc. 6th Cong. APD-IAHR, Vol. 3, pp.241-247.	Y. Kawata
1994	北海道南西沖地震による津波および奥尻岳青苗地区の氾濫の解析	海岸工学論文集, 第41巻(印刷中)	山下隆男・高林 努

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	e) 高潮予知と氾濫予測		
1981	2 レベルモデルによる高潮の追算—台風 7916 による大阪湾の高潮—	第 28 回海岸工学講演会論文集, pp.54-58.	山下隆男・岡 扶樹
	台風 7916 による大阪湾紀伊水道の高潮	京都大学防災研究所年報, 第 24 号 B-2, pp.475-484.	中村重久・山下隆男 岡 扶樹
1982	有限要素—差分モデルによる高潮の数値計算法	第 29 回海岸工学講演会論文集, pp.31-35.	山下隆男・平石哲也
	Extremal statistics of storm surges by typhoon	Proc. 19th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.115-131.	Y. Kawata
1984	Numerical simulation of storm surges by multi-level models	Proc. 19th ICCE, ASCE, pp.174-189.	T. Yamashita
	高潮氾濫数値モデルの適用性に関する研究	第 31 回海岸工学講演会論文集, pp.218-222.	山下隆男・杉本 浩
1988	伊勢湾, 大阪湾, 紀伊水道, 土佐湾における異常潮位, 高潮に及ぼす黒潮の影響	京都大学防災研究所年報, 第 31 号 B-2, pp.705-722.	山下隆男・山本圭介
	Bore front modeling in terms of Burgers equation and its numerical calculation method	Proc. 21st ICCE, ASCE, 1988, Vol. 3, pp.2589-2602.	T. Yamashita and D. R. Basco
1991	エスチャリーにおける長周期波の数値計算—田辺湾の潮流, 吹送流シミュレーション—	京都大学防災研究所年報, 第 34 号 B-2, pp.449-0469.	山下隆男・山中久生
1993	Strom surges in continental shelf	Proc. 3rd ROC & Japan Joint Seminar on Natural Hazards Mitigation, pp.207-220.	T. Yamashita
	台風 9119 号による瀬戸内海の高潮の追算	海岸工学論文集, 第 40 巻, pp.206-210.	山下隆男・光田 寧 山中久生
	準 3 次元高潮数値モデルとその適用性	海岸工学論文集, 第 40 巻, pp.211-215.	山下隆男・吉岡 洋 吉野敏成
1994	外洋高潮と港内高潮の発生機構の数値実験	海岸工学論文集, 第 41 巻 (印刷中)	山下隆男・別宮 功
	f) 非線形海岸波浪とソリトン		
1972	Some considerations of water particle velocities of finite amplitude wave theories	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 15, pp.43-57.	M. Yamaguchi
1973	浅海における波の変形—特に Soliton の発生について—	第 20 回海岸工学講演会論文集, pp.397-401.	安田孝志

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1974	新しいクノイド波理論の試み	第21回海岸工学講演会論文集, pp.65-71.	安田孝志
1975	一様流を伴う有限振幅波理論	第22回海岸工学講演会論文集, pp.29-34.	安田孝志
1977	A cnoidal wave theory and its verification	Proc. 3rd Australian Conf. Coastal & Ocean Eng., Supplement paper, pp.1-7.	T. Yasuda
1978	逓減せつ動法による Stokes 波理論	第25回海岸工学講演会論文集, pp.6-9.	安田孝志
1979	定形進行波の質量輸送	第26回海岸工学講演会論文集, pp.36-40.	岡村 隆・安田孝志 山下隆男
	Third-order approximation to short-crested waves	Jour. Fluid Mech., Vol. 90, pp. 179-196.	J. R.C. Hsu and R. Silvester
1980	Boundary-layer velocities and mass transport in short-crested waves	Jour. Fluid Mech., Vol. 99, Part 2, pp.321-342.	J. R. C. Hsu and R. Silvester
	砕波の質量輸送について	第27回海岸工学講演会論文集, pp.45-49.	筒井茂明・安田孝志 山下隆男・平口博丸
	Mass transport in progressive waves of permanent type	Proc. 17th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.70-81.	T. Yasuda and T. Yamashita
1981	A new approach to Stokes wave theory	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 31, Part 1, pp.17-34.	T. Yasuda
	相互干渉を無視した場合野ソリトンスpektrルの理論	第28回海岸工学講演会論文集, pp.89-93.	安田孝志・武山保徳
1982	現地海岸における水面変動の時空間特性	第29回海岸工学講演会論文集, pp.26-30.	河田恵昭・芝野照夫 山下隆男・小林粧男
	海岸波浪のソリトンスpektrル表示	第29回海岸工学講演会論文集, pp.41-45.	安田孝志・山下隆男 武山保徳
	ソリトンスpektrル理論による海岸波浪の内部特性表示	第29回海岸工学講演会論文集, pp.36-40.	安田孝志・篠田成郎
	不規則波浪の質量輸送の表示とその適用性	第29回海岸工学講演会論文集, pp.46-50.	安田孝志・山下隆男 大下哲則・篠田成郎
	On the relation between changes in integral quantities of shoaling waves and breaking inception	Proc. 18th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.22-37.	T. Yasuda and S. Goto
	Numerical calculation for wave shoaling on a sloping bottom by K-dV equation	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 25, pp.1-23.	T. Yasuda

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1983	ソリトンスペクトル理論による海岸波浪の統計的表示	第30回海岸工学講演会論文集, pp.69-73.	安田孝志・篠田成郎
	海岸波浪の非線形性の卓越化に伴うソリトン構造への遷移について	第30回海岸工学講演会論文集, pp.74-78.	安田孝志・山下隆男
1984	傾斜海浜上の非線形 Schrodinger 方程式	第31回海岸工学講演会論文集, pp.83-87.	安田孝志・山下隆男 平本高志
	海岸波浪の非線形性と波群構造	第31回海岸工学講演会論文集, pp.168-172.	安田孝志・山下隆男 平本高志
	ソリトンモードに基づく不規則波浪の統計量の保存性	第31回海岸工学講演会論文集, pp.178-182.	安田孝志・篠田成郎
	うねりのソリトンモードと波群構造	第31回海岸工学講演会論文集, pp.188-192.	安田孝志・篠田成郎
	エントロピーによる多ソリトン系のエネルギー分布	第31回海岸工学講演会論文集, pp.98-102.	安田孝志・三島豊秋
	表層流に起因する砕波	第31回海岸工学講演会論文集, pp.15-19.	筒井茂明
	Wave breaking in the presence of surface drift	Coastal Engineering in Japan JSCE, Vol. 27, pp.53-70.	S. Tsutsui
	A dynamical expression of waves in shallow water	Proc. 19th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.435-451.	T. Yasuda
	Waves propagating over a slowly varying depth with two-dimensional bottom topography	Advances in Nonlinear Waves, Vol. I, Pitman, pp.150-161.	J. R. C. Hsu
1985	Cnoidal waves in shallow water and their mass transport	Advances in Nonlinear Waves, Vol. II, Pitman, pp.57-76.	T. Yasuda
	非線形波の変調と波群	第32回海岸工学講演会論文集, pp.179-183.	安田孝志・山下隆男 芝野真次
	傾斜海浜上におけるソリトンとその変形	第32回海岸工学講演会論文集, pp.109-113.	安田孝志・三島豊秋
	包絡ソリトンモードと不規則波の波群特性	第32回海岸工学講演会論文集, pp.174-178.	安田孝志・中嶋規行
1986	Shoaling and evolutionary behaviour of wave packet on a gentle slope	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 29, pp.91-109.	T. Yamashita and J. Kawagoe
	砕波帯における波浪の伝ぱんとソリトンモード	第33回海岸工学講演会論文集, pp.11-15.	安田孝志・篠田成郎 植本 実

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	波浪ソリトン群とその統計理論	京都大学防災研究所年報, 第29号B-2, pp.691-716.	安田孝志・篠田成郎
	Grouping waves and their expressionon asymptotic envelope soliton modes	Proc. 20th ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.864-876.	T. Yasuda and N. Nakajima
1987	放物型屈折, 回折方程式の数値計算法と現地への適用	第34回海岸工学講演会論文集, pp.96-100.	山下隆男・山元淳史
	水平粗面上での bore front の伝ぱん特性	第34回海岸工学講演会論文集, pp.192-196.	山下隆男・今塩宏之
	海岸波浪の時系列特性とソリトンモード	第34回海岸工学講演会論文集, pp.141-145.	篠田成郎・川口智也 安田孝志
	Evolutional behaviour and instability of a single wave packet, Nonlinear Water Waves	IUTAM Symposium, pp. 47-54.	T. Yamashita
1988	Wind-forced waves in shallow water, Part 1. Theory	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 31, No. 1, pp.1-22.	S. Tsutsui
	Wind-forced waves in shallow water, Part 2. Theoretical results and their comparison with laboratory and field data	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 31, No. 1, pp.1-22.	S. Tsutsui
	現地波浪の波群の空間変化とそのモデル方程式による記述	第35回海岸工学講演会論文集, pp.93-97.	安田孝志・田中光宏 鶴飼亮行
	浅海における不規則波浪の時系列モデルについて	第35回海岸工学講演会論文集, pp.103-107.	篠田成郎・安田孝志 川口智也・石原貴司
1989	一次元的に伝ぱんするうねりの統計的性質の空間的変動	海岸工学論文集, 第36巻, pp.109-113.	安田孝志・鶴飼亮行
	浅海における不規則波浪の隣り合う波高の結合確率分布について	海岸工学論文集, 第36巻, pp.129-133.	篠田成郎・安田孝志 川口智也・石原貴司
	深海から浅海に進むうねりの波群特性	京都大学防災研究所年報, 第32号B-2, pp.781-797.	安田孝志・鶴飼亮行
1990	Numerical calculation of linear wave propagation in the coastal zone	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 40, pp.15-40.	T. Yamashita, M. Matsuyama and T. Suzuki
	不規則ソリトン列による海岸波浪の統計理論とその応用	海岸工学論文集, 第37巻, pp.126-130.	篠田成郎・安田孝志 石原貴司
1991	An approach to the amplitude distribution of shallow water swell described as a train of solitons	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 33, pp.15-32.	T. Yasuda and T. Mishima

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	g) 波, 流れ, 風による漂砂の力学		
1969	Mechanics of the successive saltation of a sand particle on a granular bed in a turbulent stream	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 19, No. 152, pp.31-44.	
	On the mechanics of saltation of a spherical sand particle in a turbulent stream	Proc. 13th IAHR Cong., pp.B19-191-198.	
1970	飛砂における砂粒の運動機構(1)—砂粒の移動限界に関する実験—	京都大学防災研究所年報, 第13号B, pp.217-232.	河田恵昭
	Successive saltation of a sand grain by wind	Proc. 12th ICCE, ASCE, Vol2, pp.1417-1427.	
	飛砂における砂粒の運動機構(2)—砂粒の Saltation の特性について—	京都大学防災研究所年報, 第13号B, pp.217-232.	河田恵昭
1971	飛砂における砂粒の saltation の特性について	第18回海岸工学講演会論文集, pp.359-364.	河田恵昭
1972	大潟海岸における漂砂の沖方向分布の特性	第19回海岸工学講演会論文集, pp.29-33.	芝野照夫
	Characteristics of saltation of sand grains by wind	Proc. 13th ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1617-1625.	Y. Kawata
1975	砂粒の Saltation に基づく飛砂量則について	第10回水理講演会論文集, pp.7-12.	河田恵昭
1976	飛砂における砂粒の移動限界と飛砂量に及ぼす含水比の影響	土木学会論文集, 第249号, pp.95-100.	河田恵昭
1980	浜漂砂に及ぼす吸水の影響について	第27回海岸工学講演会論文集, pp.270-274.	河田恵昭
1982	波による球状粒子の移動機構	第29回海岸工学講演会論文集, pp.233-237.	清水 潔
1984	掃流漂砂量則について	第31回海岸工学講演会論文集, pp.306-310.	上田康裕
	漂砂の移動限界の理論	第31回海岸工学講演会論文集, pp.272-276.	上田康裕
1986	A law for sediment transport by waves in a bed load	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 29, pp.129-139.	
1987	Sand transport by wind; Transport rates of uniform and graded sand	Proc. Coastal Sediment '87, ASCE, Vol. 1, pp.175-187.	
	漂砂形態とその発生領域	第34回海岸工学講演会論文集, pp.222-226.	坂野雅人

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	波、流れの共存場における局所洗掘	第34回海岸工学講演会論文集, pp.402-406.	河田恵昭・錦織 慎
1988	The criterion of ripple formation by wave action	Proc. 21st ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1868-1881.	M. Banno
	Local scour around cylindrical piles due to waves and currents combined	Proc. 21st ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1310-1322.	Y. Kawata
	波、流れの共存場における局所洗掘—砂れんの発生しない場合—	第35回海岸工学講演会論文集, pp.397-401.	河田恵昭・朝堀泰明
1989	飛砂の移動限界の理論	海岸工学論文集, 第36巻, pp.344-348.	三島豊秋・上田 充
1990	岸沖・沿岸漂砂量則の統一表示	海岸工学論文集, 第37巻, pp.259-263.	河田恵昭
1992	Field observation on sand ripples under rough sea state	Proc. 23rd ICCE, ASCE, Vol. 2, pp. 2164-2175.	Y. Kawata and T. Shirai
1993	飛砂における砂粒の反発機構の数値解析	海岸工学論文集, 第40巻, pp.271-275.	三島豊秋・秋山誠司
1994	掃流飛砂の二層流モデル	海岸工学論文集, 第41巻, pp.234-238.	三島豊秋
	h) 海浜過程, とくに海岸侵食とその制御		
1971	風波による海浜変形の特性について(1)—平衡断面形に関する実験的考察—	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.347-360.	吉岡 茂
	大潟海岸における海岸変形に関する観測(1)—1970年冬期季節風時の観測結果について—	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.465-485.	白井 亨・中村重久 山口正隆・芝野照夫 河田恵昭・吉岡 茂
	大潟海岸における海岸変形の特性について(1)—主として季節変化について—	京都大学防災研究所年報, 第14号B, pp.487-497.	白井 亨
1973	下新川海岸の海浜過程について	第20回海岸工学講演会論文集, pp.483-488.	芝野照夫
	大潟海岸における海岸変形の特性について(2)—海浜地形の特性—	京都大学防災研究所年報, 第16号B, pp.543-553.	白井 亨
	Observations of longshore currents and sand drifting at Ogata coast	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 16, pp.93-106.	T. Shibano
1974	大潟海岸における海岸変形の特性について(3)—カスプと底質の特性—	京都大学防災研究所年報, 第17号B, pp.597-606.	白井 亨・芝野照夫
	直江津港西海岸における海浜過程について	第21回海岸工学講演会論文集, pp.141-145.	芝野照夫

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	風波による海岸変形に関する実験	第21回海岸工学講演会論文集, pp.219-224.	稲田和則
	Characteristics of beach configuration of Ogata coast	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 17, pp.141-154.	T. Shirai
1975	白良浜の海浜過程について	第22回海岸工学講演会論文集, pp.343-348.	河田恵昭・芝野照夫 林 省造
	直江津海岸における海岸地形の変遷について	第21回海岸工学講演会論文集, pp.339-342.	芝野照夫・中西利之
1977	Long-term shoreline change of Naoetsu coast	Coastal Engineering in Japan, Vol. 20, pp.109-120.	T. Shibano
1978	海岸侵食について	京都大学防災研究所年報, 第21号A, pp.25-42.	
	波のそ上に及ぼす粗度および透水性の効果	第25回海岸工学講演会論文集, pp.160-164.	河田恵昭・矢下忠彦
	海浜変形の簡単なモデル	第25回海岸工学講演会論文集, pp.189-193.	安田孝志
	Pocket beach の平面形状について	第25回海岸工学講演会論文集, pp.209-212.	芝野照夫
	Beach processes of Shirarahama, a pocket beach	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 28, No. 2, pp.33-68.	Y. Kawata, T. Shibano, S. Nakamura, T. Yamashita, H. Yoshioka, S. Serizawa and Kardana
1979	安定海浜工法による海岸侵食制御について	第26回海岸工学講演会論文集, pp.191-194.	R. Silvester・芝野照夫
	インドネシアにおける海岸侵食について	第26回海岸工学講演会論文集, pp.267-271.	M. Yahya and A. R. Syamsudin
1980	Prediction of beach erosion at Murozumi beach	Jour. Natural Disaster Science, Vol. 2, No. 1, pp.33-68.	M. Yamaguchi, Y. Kawata, T. Shibano and T. Yamashita
	海岸線を守る技術とその考え方—主として海岸侵食対策について—	土木学会誌, 第65巻2号, pp.2-8.	
	数値計算に基づく1次元海浜変形に関する一考察	愛媛大学紀要, 第Ⅲ部工学, 第9巻, 第3号, pp.323-334.	山口正隆・大津正司
	Zeta bays, pocket beaches and headland control	Proc. 17th ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1306-1319.	R. Silvester and T. Shibano

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1981	海浜変形の相似則に関する実験的研究	第28回海岸工学講演会論文集, pp.315-319.	伊藤政博
	大潟海岸の漂砂源について	第28回海岸工学講演会論文集, pp.251-255.	白井 亨
	富山県宮崎海岸の海浜過程について	京都大学防災研究所年報, 第24号B-2, pp.433-473.	山口正隆・白井 亨 河田恵昭・芝野照夫 山下隆男・A. R. Syamsudin
1982	安定海浜の形成に関する実験的研究	第29回海岸工学講演会論文集, pp.274-278.	芝野照夫・西寫照毅
	ヘッドランド周辺の海浜流と安定海浜の形成について	第29回海岸工学講演会論文集, pp.347-350.	安田孝志・片山章仁
	The rate of longshore sediment transport and beach erosion control	Proc. 18th ICCE, ASCE, Vol. II, pp.1326-1334.	
1983	Long-term changes in beach profile-sat Ogata coast	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 32, Part 3, pp.171-187.	T. Yamashita and T. Shirai
1984	琵琶湖, 萩の浜の海浜過程に関する研究	京都大学防災研究所年報, 第27号B-2, pp.641-681.	河田恵昭・芝野照夫 山下隆男
	白良浜の海浜過程とその保全(1)	京都大学防災研究所年報, 第27号B-2, pp.513-555.	河田恵昭・芝野照夫 山下隆男
	大潟海岸における海浜断面形状の長期変化について	第31回海岸工学講演会論文集, pp.365-370.	白井 亨・山下隆男
	漂砂の動態による海岸の分類について	京都大学防災研究所年報, 第27号B-2, pp.557-572.	芝野照夫
	Scale-model relationship of beach profile	Proc. 19th ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1386-1402.	M. Ito
	海岸侵食制御試論	海岸, No. 24, pp.1-10.	
	砂浜海岸の分類と底質特性について	第32回海岸工学講演会論文集, pp.326-330.	芝野照夫
1985	白良浜の海浜過程とその保全(2)	京都大学防災研究所年報, 第28号B-2, pp.565-589.	河田恵昭・R. Silvester
	琵琶湖西岸における底質特性について	京都大学防災研究所年報, 第28号B-2, pp.591-609.	芝野照夫・山下隆男 井上雅夫
	砂浜海岸の分類と底質特性について	第32回海岸工学講演会論文集, pp.326-330.	芝野照夫
1986	Time scale for modeling beach change	Proc. 20th ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1196-1209.	M. Ito
	Applicability of sub-sand filter system to beach erosion control	Proc. 20th ICCE, ASCE, Vol2, pp.1255-1267.	Y. Kawata

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1987	糸魚川海岸の侵食制御について	京都大学防災研究所年報, 第29号B-2, pp.727-762.	芝野照夫・山下隆男 白井 亨・山元淳史
	糸魚川海岸の侵食制御について	京都大学防災研究所年報, 第29号B-2, pp.727-762.	芝野照夫・山下隆男 白井 亨・山元淳史
	海岸侵食の制御	土木学会論文集Ⅱ, 387Ⅱ-8号, pp.11-23.	
	現地海岸における波浪エネルギーの散逸特性と平衡海浜断面形状	第34回海岸工学講演会論文集, pp.317-321.	山下隆男・玉田浩一 J. R. Tallent
	黒部川扇状地海岸の形成と変化について	第34回海岸工学講演会論文集, pp.322-326.	芝野照夫・須山 洋 吉村敏明
1988	Two time scales in beach erosion due to decrease in sediment sources with special reference to the formation and reduction of the delta of the Kurobe river flowing into the Japan sea	Natural Hazards Journal, Vol. 1, No. 1, pp.45-65.	T. Shibano, H. Suyama and T. Yoshimura
	天竜川扇状地と遠州灘海岸の形成	京都大学防災研究所年報, 第31号B-2, pp.775-791.	芝野照夫・富谷 雄
	T型栈橋による高波浪時の海底地形計測法	第35回海岸工学講演会論文集, pp.387-391.	河田恵昭・吉岡 洋 芹沢重厚
	Reproduction models of beach change by storm waves	Proc. 21st ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1544-1557.	M. Ito
	Field calculations of wave energy dissipation and related beach profile	Proc. 21st ICCE, ASCE, Vol. 2, pp.1833-1841.	J. R. Tallent and T. Yamashita
1989	Beach erosion at Kuta beach, Bali and its control	Proc. 6th Cong. APD-IAHR, Vol. IV, pp.161-168.	A. R. Syamsudin and Kardana
	高波浪時における漂砂観測法	海岸工学論文集, 第36号, pp.269-273.	河田恵昭・吉岡 洋 藤木繁男
1990	海浜変形数値モデル	京都大学防災研究所年報, 第33号B-2, pp.503-542.	山下隆男・松山昌史 鈴木 剛
	沖浜における海浜断面形状の形成	海岸工学論文集, 第37号, pp.324-328.	河田恵昭・西 良一
	高波浪時の海底微地形の観測	海岸工学論文集, 第37号, pp.329-333.	河田恵昭・白井 亨 吉岡 洋・伊藤政博
	The in situ measurement of sediment transport and bottom topography changes	Proc. 22nd ICCE, ASCE, Vol. 3, pp.2332-2345.	Y. Kawata and H. Yoshioka

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	Beach erosion due to large coastal-structure and its control	Proc. 22nd ICCE, ASCE, Vol. 3, pp.2726-2739.	T. Yamashita and R. Silvester
1991	安定海浜の形成の数値シミュレーション	海岸工学論文集, 第38号(1), pp.391-395.	山下隆男・熊谷隆宏
	富山県石田漁港の最適建設位置の選定と海浜変形	海岸工学論文集, 第38号(1), pp.421-425.	芝野照夫・山下隆男
	大規模海岸構造物による海岸侵食の機構	海岸工学論文集, 第38号(1), pp.436-440.	山下隆男・都丸徳治
	Formation and reduction processes of river deltas; Theory and experiments	Bulletin, DPRI, Kyoto Univ., Vol. 41, Part 3, No. 360, pp.177-224.	H. E. A. A. Refaat
1992	構造物による海浜変形とそれに伴う海岸決壊—市振海岸を対象として—	海岸工学論文集, 第39号(1), pp.441-445.	河田恵昭・山下隆男 西 良一
	長期海浜変形予測モデル	海岸工学論文集, 第39号(1), pp.411-415.	山下隆男・阿曾克司
	スキャンニング式海底プロファイラーによる外浜海浜地形の3次元計測	海岸工学論文集, 第39号(1), pp.401-405.	山下隆男・岩井 卓 遠藤保彦
	Numerical simulation of pocket beach formation	Proc. 23rd ICCE, ASCE, Vol. 3, pp.2556-2566.	T. Yamashita
	Formation and reduction processes of river deltas; Theory and experiments	Proc. 23rd ICCE, ASCE, Vol. 3, pp.2772-2785.	H. E. A. A. Refaat
	Sandy beach stabilization; Preservation of Dhirarahama beach, Wakayama	Proc. 23rd ICCE, ASCE, Vol. 3, pp.3426-3439.	Y. Kawata, T. Yamashita, T. Shibano, M. Kawasaki and S. Habara
1993	粒度分布を考慮した砂質土における非定常浸透流の基礎方程式とその抵抗則	京都大学防災研究所年報, 第36号B-2, pp.285-313.	山元淳史
	埋立地前面における砂浜海浜の造成について	京都大学防災研究所年報, 第36号B-2, pp.315-333.	藤木繁男・関塚良光 中西裕之
	海岸構造物による海岸侵食とその制御(1)—海岸侵食の機構—	京都大学防災研究所年報, 第36号B-2, pp.335-344.	山下隆男・都丸徳治
	海岸構造物による海岸侵食とその制御(2)—上越, 大潟海岸の大規模海浜過程と海岸侵食制御—	京都大学防災研究所年報, 第36号B-2, pp.345-383.	山下隆男・泉 達尚 鳥取一雄
	海岸構造物による海岸侵食とその制御(3)—安定海浜工法による海岸侵食制御の方法論と安定海浜の形成に関する実験—	京都大学防災研究所年報, 第36号B-2, pp.385-410.	河田恵昭・山下隆男 松井 進

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	安定海浜の形成；理論形状とその適用性	海岸工学論文集，第40巻，pp.371-375.	陳 活雄・和田宙司
	大規模海浜過程の予測—上越・大潟海岸の場合—	海岸工学論文集，第40巻，pp.456-460.	山下隆男・泉 達尚 鳥取一雄
	バリ島の珊瑚礁海岸の侵食制御について	海岸工学論文集，第40巻，pp.466-470.	A. R. Syamsudin・ 山下隆男
	河口デルタの形成過程の予測(1)—大河 津分水路河口部における河口デルタの 形成について—	海岸工学論文集，第40巻， pp.481-485.	山下隆男・斎藤正勝 渡辺正一
	天橋立海岸におけるサンドバイパス工 法による動的安定海浜の形成	海岸工学論文集，第40巻， pp.541-545.	陳 活雄・山田 稔
	砂浜海岸における海岸地下水の挙動	海岸工学論文集，第40巻， pp.571-575.	山元淳史・山下隆男 赤村重紀
1994	沿岸埋立地の護岸付近における地下水 の挙動	海岸工学論文集，第41巻， pp.432-436.	山元淳史
	上越・大潟海岸の海浜過程と漁業生産 量の変化	海岸工学論文集，第41巻， pp.381-385.	山下隆男・村上欣哉
	新潟海岸の大規模海浜過程と海岸侵食 制御に関する研究	京都大学防災研究所年報， 第37号A pp. 486-531.	山下隆男・泉 達尚
	河口デルタの球大・縮小に起因する海 浜変形(1) —寺泊・野放海岸での河口デルタの形 成—	京都大学防災研究所年報， 第37号A pp. 532-562.	山下隆男・斎藤正勝
	i) 海岸付近の流れ，とくに海浜流		
1978	新しい波浪水槽	第25回海岸工学講演会論文 集，pp.51-54.	安田孝志・山下隆男
1979	離岸流の理論(1)—直角入射の場合—	第26回海岸工学講演会論文 集，pp.495-499.	安田孝志・徳田邦博
1980	離岸流の理論(2)—斜め入射の場合—	第27回海岸工学講演会論文 集，pp.158-162.	安田孝志・片山章仁
1983	離岸流の理論(3)	第30回海岸工学講演会論文 集，pp.465-469.	安田孝志
	田辺湾における流れの長期連続観測	京都大学防災研究所年報， 第26号B-2，pp.637-672.	海象(流れ)観測グルー プ
	超音波式流速計による長期潮流観測に ついて	第30回海岸工学講演会論文 集，pp.500-504.	吉岡 洋・棚橋輝彦 市川雅史・土子良治

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1986	砕波帯における戻り流れについて	第33回海岸工学講演会論文集, pp.31-35.	山下隆男・植本 実
	一様海浜における離岸流の発生と沿岸境界条件	第33回海岸工学講演会論文集, pp.36-40.	河田恵昭・芝野照夫 Dadang Ahmad S. 宍倉知宏
1988	A model of undertow	Coastal Engineering in Japan, JSCE, Vol. 30, No. 2, pp.63-73.	T. Yamashita and M. Uemoto
	砕波水平渦の生成機構と移動特性	第35回海岸工学講演会論文集, pp.54-58.	山下隆男・J. R. Tallent
	鉛直2次元海浜流モデル	第35回海岸工学講演会論文集, pp.267-271.	山下隆男・Dadang Ahmad S.・宍倉知宏
1989	超音波式流速計による砕波帯における長期連続観測について	海岸工学論文集, 36巻, pp.224-228.	吉岡 洋・棚橋輝彦 仲井圭二・森田行司 磯部憲雄
	不等流沿岸流における流速の相似性について	海岸工学論文集, 36巻, pp.234-238.	河田恵昭・H. E. A. A. Refaat
	海浜流, とくに離岸流の発生理論	京都大学防災研究所年報, 第32号B-2, pp.799-831.	Dadang Ahmad S.
	超音波式流速計による砕波帯における長期連続観測について	京都大学防災研究所年報, 第32号B-2, pp.847-879.	吉岡 洋・棚橋輝彦 仲井圭二・森田行司 磯部憲雄
	一様海浜における離岸流の理論	海岸工学論文集, 第36巻, pp.244-248.	Dadang Ahmad S.
	鉛直2次元海浜流モデル—数値計算法—	海岸工学論文集, 第36巻, pp.244-248.	山下隆男・Dadang Ahmad S.・宍倉知宏
	j) 自然災害, とくに気象災害とその変遷および予測論		
1990	Vertically 2-D nearshore circulation model	Proc. 22nd ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.150-163.	T. Yamashita and Dadang Ahmad S.
	Similarity of velocity profiles in non-uniform longshore currents	Proc. 22nd ICCE, ASCE, Vol. 1, pp.281-292.	H.. E. A. A. Refaat and Y. Kawata
1981	台風7617, 7916, 7920号による高知海岸の災害について	京都大学防災研究所年報, 第24号B-2, pp.485-508.	上森千秋・玉井佐一 安田孝志
	High tides and life risk, refuge warning in relation to the Ise bay typhoon	Jour. Natural Disaster Science, Vol. 2, No. 1, pp.17-34.	T. Yasuda

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	Risk to life,warning systems and protective construction against storm surges in Osaka bay	our. Natual Disaster Science, Vol. 3, No. 1, pp.33-55.	Y. Kawata
1984	日本海中部地震津波による災害について	京都大学防災研究所年報, 第27号A, pp.1-29.	酒井哲郎・河田恵昭 中村重久・芝野照夫 吉岡 洋・山下隆男 島田富美男
1986	Historical study of changes in storm surge disasters in the Osaka area	Jour. Natural Disaster Science, Vol. 8, No. 2,pp.1-18.	Y. Kawata
	大阪における安政南海道津波の復元(1) —氾濫災害について—	京都大学防災研究所年報, 第29号B-2, pp.763-794.	河田恵昭
1987	大阪における高潮, 津波災害の変遷	都市防災シンポジウム講演集, pp.73-78.	河田恵昭
	Historical changes of storm surge disasters in Osaka	Natural & Man- Made Hazards, Vol. 1, pp.267-291.	Y. Kawata
1988	都市水害論(1)—災害の時空間スケールと変遷について—	京都大学防災研究所年報, 第31号B-2, pp.677-703.	
	大阪における安政南海道津波の復元(2) —津波の伝ぱん, 氾濫特性について—	京都大学防災研究所年報, 第31号B-2, pp.723-751.	河田恵昭・酒井哲郎 島田富美男
1989	Flooding due to the Ansei Nankaido Tsunami in Osaka	Proc. Japan-China (Taipei) Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, pp.505-514.	Y. Kawata,T. Sakai and F. Shimada
	都市水害論(2)—タイムスケール2000年における災害の変遷(つつき)—	京都大学防災研究所年報, 第32号B-2, pp.909-934.	
	都市水害論(3)—江戸時代の災害—	京都大学防災研究所年報, 第32号B-2, pp.457-481.	
1990	都市水害論(4)—江戸時代の災害(つつき)と災害による社会変動モデル—	京都大学防災研究所年報, 第33号B-2, pp.421-447.	
	Historical changes in natural water hazards in Japan	Proc. 4th Pacific Congress on Marine Sciecn & Technology, Vol.1, pp.1-8.	
1992	戦後の風水害の復元 (1)—枕崎台風—	京都大学防災研究所年報, 第35号B-2, pp.403-432.	河田恵昭・御前雅嗣 岡 太郎
	Effect of the war on flood damages in Hiroshima due to typhoon 4516	Proc. 2nd US-Asia Conf. on Eng. for Mitiga. Nat. Had. Damages, pp.F04-1-8.	Y. Kawata and T. Oka
1994	災害と文明—わが国の風水害の変遷史—	京都大学防災研究所年報, 第37号A, pp.1-24.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
	k) 国連開発計画 (UNDP) 派遣およびインドネシア政府招聘によるインドネシアの海岸侵食に関する研究		
1975	On the Batumadeg beach, Bali with special reference to design criteria of seawall and beach erosion problems	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 30p.	
	On the river mouth closing at the Lebih beach, Bali	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 33p.	
1976	On the long-term beach change along the Bali strait	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 87p.	
	On the west coast of Sumatra with special reference to beach erosion and design criteria of seawall	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 87p.	M. Yahya and A. R. Syamsudin and Kardana
	On the Kedung-Semat beach, Central Java with special reference to beach erosion problems	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 44p.	M. Yahya and A. R. Syamsudin
	On the Manado beach, Celebes with special reference to beach erosion problems	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 64p.	M. Yahya and A. R. Syamsudin
	Field investigations on beach erosion in the Bali coast (1)—Kuta beach —	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 148p.	M. Yahya and A. R. Syamsudin
	Final report with special reference to future work programme in coastal engineering research at the Institute of Hydraulic Engineering	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power.	
1978	Final report of coastal engineering consultant with special reference to beach changes in Sanur beach, Bali	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power, 44p.	
	Final report of coastal engineering consultant with special reference to beach changes in Sanur beach, Bali	UNDP, OTC/SF Project, INS-70/527, Institute of Hydraulic Engineering, Ministry of Public Works & Power.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1987	Final report of beach erosion control in Bali and West Java, and short course on coastal engineering	Institute of Hydraulic Engineering, Agency for Research & Development, Ministry of Public Works & Power, 52p.	
	I) 論説および講義集		
1965	ダムにおける Sedimentaion, 第2編 局所洗掘論	1965年土木学会水工学に関する夏期研修会講義集, 水工学シリーズ 65-03, pp.21-35.	
1967	土砂の流出	水理学, 水文学における最近の進歩, 土木学会関西支部, pp.149-161.	
1970	掃流砂礫の流送機構	1970年土木学会水工学に関する夏期研修会講義集, 水工学シリーズ 70-15, pp.1-23.	
1971	波浪観測とその解析	1971年土木学会水工学に関する夏期研修会講義集, 水工学シリーズ 71-B-8, pp.1-32.	
1973	海岸土砂収支と海浜変形	1973年土木学会水工学に関する夏期研修会講義集, 水工学シリーズ 73-B-3, pp.1-19.	
1980	有限振幅波の理論	1980年土木学会水工学に関する夏期研修会講義集, 水工学シリーズ 80-B-7, pp.1-24.	
1981	自然災害特別研究の成果と最近の動向	学術月報, Vol. 34, No. 4, pp.260-277.	石原安雄
1981	高潮の発生機構とその極値に関する研究	自然災害特別研究成果報告書, 災害科学総合研究班, 154p.	研究分担者
1982	海岸百態	同朋, 51, pp.12-14.	
1984	人, そして海浜	みなとの防災, 第82号, pp.1-2.	
1985	下新川海岸を語る, その歴史と将来への展望	けんせつほくりく, (社)北陸建設弘済会, No. 184, pp.21-26.	奥田新作・須山 洋

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1985	海岸侵食制御について	海岸実務講義集, (社)全国海岸協会, pp.11-19.	荻野幸和・柚木春雄 魚津龍一・野崎吉郎 田中純子・佐藤久美子 寺田重信・宇多高明 佐々木庸介
1986	海岸侵食から美しい砂浜へ	建設月報, 建設省, 第446号, pp.24-27.	
1986	漂砂量則について	1986年土木学会水工学に関する夏期研修会講義集, 水工学シリーズ86-B-4, pp.1-22.	
1989	碎波帯用超音波流速計	学術月報, Vol. 42, No. 8, p.73.	
1989	下新川海岸を語る	下新川海岸NOW30記念懇談会, けんせつほくりく, (社)北陸建設弘済会, No. 188, pp.86-93.	
1990	21世紀の海岸像	建設月報, 建設省, 第492号, pp.27-29.	
1990	より長期的な展望において防災の基礎研究の推進を	時の動き(政府の窓), 特集防災, 総理府, 通巻852号, pp.54-55.	
1991	安定海浜の形成と海岸侵食制御について—安定海浜工法とは?—	海岸実務講義集, (社)全国海岸協会, pp.12-26.	
	安定海浜工法, その理論と実際	土木学会誌, 1991年3月号, pp.15-17.	
1991	A short course on coastal engineering with special reference to coastal sedimentation	Used at the Department of Civil Engineering, University of Western Australia in 1986 and at Institute of Hydraulic Engineering, Agency for Research & Development	
	台風と高潮—都市に高潮が氾濫するとき—	公開講座: 都市の防災, 第2回, 京都大学防災研究所, pp.43-69.	

2) 著書

発行年	書名	発行所	共著者
1970	8.3 野外観測, 土木計測便覧(京都大学土木会編)	丸善, pp.357-369.	
1971	8.1 および8.4 海岸災害, 水災害の科学(矢野勝正編著)	技報堂, pp.601-607 および713-720.	

発行年	書 名	発 行 所	共 著 者
1972	13. 海岸構造物の水理機能, 水工水理学(石原藤次郎編)	丸善, pp.561-637.	T. Yasuda
1985	Cnoidal waves in shallow water and their mass transport, in Advances in Nonlinear Waves, Edited by L. Debnath, Vol. II	Pitman, pp.57-76.	
1990	第7章漂砂と湖岸地形, 湖沼工学(岩佐義朗編著)	山海堂, pp.179-194.	
1991	8. Threshold of sand movement, in Handbook of Coastal and Ocean Engineering, Vol. 2, Edited by John B. Herbich	Gulf Publishing Company, pp.597-610.	

3) 学位授与論文 (主査)

発表年	論 文 名	大 学 名	著 者
1973	海岸堤防の越波に関する基礎的研究	京都大学	井上雅夫
1974	柱体に作用する波力と重複波の波圧に関する基礎的研究	京都大学	山口正隆
1974	長周期波の変形とその制御に関する研究	京都大学	中村重久
1976	飛砂, 流砂における砂粒の流送機構に関する基礎的研究	京都大学	河田恵昭
1978	浅海における有限振幅波理論とその適用に関する研究	京都大学	安田孝志
1979	Short-Crested Water Waves	The University of Western Australia	John R. C. Hsu
1980	海浜カスプの特性と海岸地形の変動予測に関する研究	京都大学	玉井佐一
1981	波の回折と港内波高分布に関する研究	京都大学	高山知司
1984	Wave Breaking and Wind-Forced Waves in Shallow Water	京都大学	筒井茂明
1985	漂砂の動態に基づく砂浜海岸の特性とその変遷に関する研究	京都大学	芝野照夫
1986	二次元海浜変形の特性とその相似則に関する研究	京都大学	伊藤政博
1989	2-D Horizontal and Vertical Near-shore Circulation	京都大学	Dadang Ahmad S.

発表年	論文名	大学名	著者
1990	The Formation and Reduction Processes of River Deltas and Their Control	京都大学	Hossam El-din A. A. Refaat
1990	The Role of the Large Scale Eddy in Breaking Water Waves	京都大学	James Russell Tallent
1992	多方向不規則波の発生とその応用に関する研究	京都大学	平石哲也
1992	無反射型多方向不規則波造波システムとその適用性に関する研究	京都大学	平口博丸
1993	Beach Erosion in Coral Reef Beaches and Its Control	京都大学	Abdul Rachim Syamsudin
1993	沿岸海域における海底境界層の構造に関する研究	京都大学	鷺見栄一
1993	Studies on Hydraulic Performance and Stability of Composite Rubble and Permeable Submerged Breakwaters	京都大学	山本方人
1993	Computational Coastal Hydraulics with Relation to Predictions of Storm Surges and Beach Changes	京都大学	山下隆男
1993	わが国沿岸における異常波浪とその予知に関する研究	京都大学	駒口友章
1993	浅海における不規則ソリトン列の統計的取り扱いとその応用に関する研究	京都大学	篠田成郎
1993	海岸地下水の理論と砂浜海岸および沿岸埋立地への応用に関する研究	京都大学	山元淳史
1993	大河津分水による河口デルタ地形の形成と予測に関する研究	京都大学	斉藤正勝
1993	珊瑚礁海岸の水理と地形変化の予測に関する研究	京都大学	谷本修志
1993	大規模海浜過程の予測と海岸構造物による海浜変形の制御に関する研究	京都大学	都丸徳治
1993	砂嘴地形海岸の侵食と制御に関する研究—天橋立海岸を対象として—	京都大学	陳 活雄
1994	飛砂・流砂における砂粒の運動機構と二相流モデルに関する研究	京都大学	三島豊秋

略 記

- 1) DPRI : Disaster Prevention Research Institute

- 2) ICCE : International Conference on Coastal Engineering
- 3) IAHR : International Association for Hydraulic Research
- 3) ASCE : American Society of Civil Engineers
- 4) JSCE : Japan Society of Civil Engineers
- 5) 海岸工学講演会講演集, 海岸工学講演会論文集, 海岸工学論文集および水理講演会講演集はいずれも土木学会編



加茂幸介教授

加 茂 幸 介 教 授 略 歴

昭和5年7月5日	中国青島市に生まれる
25年3月	京都府立亀岡高等学校卒業
25年4月	京都大学理学部入学
29年3月	京都大学理学部地球物理学科学士試験合格
29年4月	京都大学大学院理学研究科修士課程入学
31年3月	京都大学大学院理学研究科修士課程終了
31年4月	京都大学大学院理学研究科博士課程入学
34年3月	京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学
34年4月	京都大学理学部助手
37年4月	京都大学理学部附属火山研究施設に配置換え
37年9月	京都大学理学博士
44年4月	京都大学理学部講師
44年8月	京都大学防災研究所助教授
48年5月	京都大学防災研究所附属桜島火山観測所長（併任）
48年11月	京都大学防災研究所教授
平成6年3月	京都大学教授を停年退官
6年4月	京都大学名誉教授

**加茂幸介教授研究業績
論 文**

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
	<u>火山性地震・微動に関する論文</u>		
1960	長週期地震計による阿蘇火山微動の観測	火山, 第 2 集, 第 5 巻, 35-48	
1962	Nature of the Volcanic Micro-Tremors at the Volcano Aso Part 1. Observation of a New Type of Long-Period Micro-Tremors by Long-Period Seismograph	Disas. Prev. Res. Inst. Bull., Kyoto Univ., No. 54, 1-16	
1962	Nature of the Volcanic Micro-Tremors at the Volcano Aso Part 2. Some Natures of the Volcanic Micro-Tremors of the 1st kind at the Volcano Aso	Disas. Prev. Res. Inst. Bull., Kyoto Univ., No. 55, 1-13	
1963	Note on Volcanic Explosion Earthquakes of the Volcano Sakurajima	Geophys. Paper Dedicated to Prof. K. Sassa, 643-646	T. Wada and H. Ono
1963	桜島火山の火山性地震の性質について (第 1 報)	火山, 第 2 集, 第 8 巻, 11-19	吉川圭三・和田卓彦・小野博尉
1965	桜島火山の火山性地震の性質について	京大防災研究所年報, 第 8 号, 35-41	吉川圭三・和田卓彦・小野博尉
1966	Volcanic Tremor of Kilauea Volcano, Hawaii, During July-December, 1963	Bull. Earthq. Res. Inst. Vol. 44, 1093-1133	D. Shimozuru and W. T. Kinoshita
1967	噴火直前の火山性地震の性質	第 4 回災害科学シンポジウム論文集, 仙台, 16	和田卓彦
1968	噴火前後の火山性地震の性質	京大防災研究所年報, 第 11 号 A, 121-130	和田卓彦・小野博尉・須藤靖明
1970	自動地震記録装置	京大防災研究所年報, 第 13 号 A, 35-40	和田卓彦
1970	Measurement of Kinetic Energy of Volcanic Microtremors	Spec. Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 10, 149-158	T. Wada and Y. Sudo
1970	火山性微動の観測の数値化	火山, 第 2 集, 第 15 巻, 1-9.	和田卓彦・須藤靖明
1971	阿蘇カルデラ周辺の地震について—東部外輪山地域の地震活動について—	京大防災研究所年報, 第 14 号 A, 131-138	小野博尉・須藤靖明
1972	A Characteristic Occurrence of Earthquake-Swarms at the Volcano Aso Caldera-rim	Contr. Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 12, 145-155	T. Wada and Y. Sudo

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1973	阿蘇外輪域に発生した群発地震活動	火山, 第 2 集, 第 18 巻, 19-31	和田卓彦・須藤靖明
1973	Microtremori Vulcanici ed Attivita' Eruttiva del Vulcano Aso (Kyushu-Giappone)	Boll. Soc. Geol. It., 92, 495-516	G. Nappi
1974	薩南諸島域の地震火山活動	京大防災研究所年報, 第 17 号 B, 91-96	西 潔
1975	地震活動調査	科研費自然災害特別研究「桜島火山の総合調査報告」, 1-5.	西 潔・他 5 名
1975	地震計の設置	サンシャイン計画委託調査報告書「火山発電方式に関するフィジビリティスタディ」, 77-84	
1976	地震観測	サンシャイン計画委託調査報告書「火山発電方式に関するフィジビリティスタディ」, 38-59	
1977	桜島火山の地震活動について	科研費総合研究・大型共同研究「第 2 回桜島火山の集中総合観測」, 6-12	西 潔・中村理祐
1977	桜島の火山性微動の性質について	火山, 第 2 集, 第 22 号, 41-58	古沢 保・赤松純平
1978	地震観測	サンシャイン計画委託調査報告書「火山発電方式に関するフィジビリティスタディ」, 17-31	
1979	桜島火山に発生するやや深い地震と火山活動について	鹿児島県の地震と火山, 第 11 号, 71-76	西 潔
1980	桜島火山の地震活動について	大型共同研究「第 3 回桜島火山の集中総合観測」, 5-10	西 潔・高山鉄朗 中村理祐
1980	桜島南方の地震活動と地震波異常伝搬域	大型共同研究「第 3 回桜島火山の集中総合観測」, 11-15	西 潔・高山鉄朗 植木貞人
1982	桜島火山の地震活動について	大型共同研究「第 4 回桜島火山の中総合研究」, 5-10	西 潔・高山鉄朗 渡辺義徳
1986	桜島火山の地震活動について	大型共同研究「第 5 回桜島火山の集中総合研究」, 5-10	西 潔・井口正人 高山鉄朗・渡辺義徳

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1988	桜島火山の地震活動	大型共同研究「第 6 回桜島火山の集中総合観測」, 7-14	西 潔・井口正人 高山鉄朗・清水邦夫 山里 平
1989	桜島火山の地震活動	大型共同研究「第 7 回桜島火山の集中総合観測」, 7-11	西 潔・井口正人 高山鉄朗・池田安彦 宇平幸一
	<u>地震一般に関する論文</u>		
1961	九州における脈動の伝搬方向	地 震, 第 2 輯, 第 14 卷, 131-137	岡野健之助
1970	地すべり地の Crack 群の雑微動に対する影響	第 8 回自然災害科学総合シンポジウム論文集, 札幌, 195-196	和田卓彦・古沢 保・ 尾上謙介
1972	The Observation of Microtremors Correlated with the Existence of Cracks at the Landslide Area	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Vol. 21, 217-226	T. Wada, T. Furuzawa and K. Onoue
1974	地すべり地の Crack 群の雑微動に対する影響	地 震, 第 2 輯, 第 26 卷, 316-325	和田卓彦・古沢 保・ 尾上謙介
1974	奄美大島諸島地域における地震観測結果	鹿児島県地震と火山, 第 6 号, 36-41	西 潔
1990	九州地域における震源の高精度決定— 大学観測網による震源の検討—	地 震, 第 2 輯, 第 43 卷, 543-545	西 潔・他 10 名
	<u>火山の構造・構造探査に関する論文</u>		
1954	振動源付近の走時について	物理探鉱, 第 7 号, 97	杉山昭之助
1959	阿蘇火山中岳火口付近における地震探査	火山, 第 2 集, 第 4 卷, 20-32	吉川宗治・狐崎長琅
1964	火山における地震の研究 第 1 報阿蘇火山の簡単な地下構造と火山性地震の震源分布	火山, 第 2 集, 第 9 卷, 25-37	和田卓彦・外 輝明
1964	A Simplified Model of Upper Crust from Seismic Wave Velocities at Volcano Aso	Spec. Contr. Geophys. Inst. Kyoto Univ., No. 4, 91-104	T. Wada
1968	阿蘇カルデラ内の人工爆破観測結果について	京大防災研究所年報, 第 11 号 A, 111-119	菊池茂智
1973	鹿児島市の地盤調査	鹿児島開発事業団報告書	
	<u>地盤変動に関する論文</u>		

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1977	精密水準測量・辺長測量	サンシャイン計画委託調査報告書「火山発電方式に関するフィジビリティスタディ」, 69-72	
1980	地盤変動からみた桜島の火山活動	桜島地域学術調査協議会調査研究報告, 19-28	
1986	地盤変動連続観測で捕捉された山頂噴火の前駆現象	京大防災研究所年報, 第29号B-1, 1-12	石原和弘
1911	雲仙火山眉山及び周辺の地盤変動調査	科研費総合研究「雲仙火山眉山の地学・土質工学的環境の基礎的調査研究」, 36-41	石原和弘・江頭庸夫
1922	雲仙火山の火山活動に伴う地盤変動	科研費総合研究「雲仙岳溶岩流出の予知に関する観測研究」, 29-42	国立大学火山観測機関合同観測班・測地グループ
1993	雲仙普賢岳の噴火活動に伴う地盤変動	科研費総合研究「雲仙岳溶岩ドームの形成と崩壊に関する総合的観測研究」, 38-53	国立大学火山観測機関合同観測班・測地グループ
	<u>赤外線熱映像に関する論文</u>		
1975	赤外映像による桜島南岳の地表温度異常域の調査	科研費自然災害特別研究「桜島火山の総合調査報告」, 33-39	西 潔
1975	桜島南岳の赤外映像	第12回自然災害科学総合シンポジウム論文集, 浦和, 361-362	西 潔
1977	桜島火山の熱映像の調査研究	科研費自然災害特別研究「噴火予知のための主要活火山における熱的状态の研究」, 129-153	江頭庸夫・西 潔 石原和弘
1977	赤外線映像による桜島南岳の地表異常温度域	科研費総合研究・大型共同研究「第2回桜島火山の集中総合観測」, 34-42	江頭庸夫・西 潔 石原和弘
1980	赤外線映像による桜島火山の地表温度異常域の調査	大型共同研究「第3回桜島火山の集中総合観測」, 27-33	西 潔・高山鉄朗
1982	赤外線映像による桜島火山の地表温度異常域の調査—地上赤外測定—	大型共同研究「第4回桜島火山の集中総合観測」, 29-32	西 潔・高山鉄朗 須藤靖明

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1986	赤外映像による桜島火山の地表温度異常域の調査	大型共同研究「第5回桜島火山の集中総合観測」, 29-32	西 潔・井口正人 高山鉄朗
1988	赤外線映像による桜島火山の地表温度異常域の調査	大型共同研究「第6回桜島火山の集中総合観測」, 31-36	西 潔・井口正人 高山鉄朗
1989	赤外線映像による桜島火山の地表温度異常域の調査	大型共同研究「第7回桜島火山の集中総合観測」, 27-31	西 潔・井口正人 高山鉄朗
	<u>噴火現象に関する論文</u>		
1983	火山の爆発過程における噴煙および火山ガスの放出について	京大防災研究所年報, 第26号 B-1, 1-7	石原和弘・井口正人
1983	火山弾の飛跡の解析—放出速度と爆発圧力について—	京大防災研究所年報, 第26号 B-1, 9-21	井口正人・石原和弘
1986	最近桜島で発生した小型火砕流	科研費自然災害特別研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流(火砕流等)の特質と災害」, 129-135	石原和弘
1986	火山の爆発機構—Vulcano 式噴火に伴う諸現象の特性—	科研費自然災害特別研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流(火砕流等)の特質と災害」, 213-223	石原和弘
1993	Infrasonic and acoustic-gravity waves generated by the Mount Pinatubo eruption of June 15, 1991	USGS Professional Paper (in press)	M. Tahira, M. Nomura and Y. Sawada
	<u>火山活動に関する論文</u>		
1973	最近の桜島火山活動の特徴	第10回自然災害科学総合シンポジウム論文集, 福岡, 117-118	
1975	最近の桜島火山活動 (続報)	第11回自然災害科学総合シンポジウム論文集, 名古屋, 343-344	
1975	桜島火山の総合調査概報	火山噴火予知連絡会会報, 第4号, 33-36	
1976	最近の桜島火山活動	科研費総合研究「鹿児島湾北部の海中火山活動と環境調査報告」, 29-34	
1977	最近の桜島火山活動	科研費総合研究「桜島北部海域の海底火山活動と環境の異常」, 29-34	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1977	桜島火山活動の経過	科研費総合研究・大型共同研究「第2回桜島火山の集中総合観測」, 1-5	江頭庸夫
1977	第2回桜島火山の集中総合観測の総括—火山活動評価の試み—	科研費総合研究・大型共同研究「第2回桜島火山の集中総合観測」, 125-128	
1979	第3回桜島集中総合観測結果概要	火山噴火予知連絡会会報, 第15号, 18-22	
1980	桜島火山活動の経過—1977, 1978年—	大型共同研究「第3回桜島火山の集中総合観測」, 1-4	
1980	第3回桜島火山の総合調査報告の総括	大型共同研究「第3回桜島火山の集中総合観測」, 120-123	
1982	桜島火山活動の経過—1979, 1980年—	大型共同研究「第4回桜島火山の集中総合観測」, 1-4	
1982	第4回桜島火山の集中総合観測の総括	大型共同研究「第4回桜島火山の集中総合観測」, 107-108	
1983	第5回桜島火山集中総合観測結果概要	火山噴火予知連絡会会報, 第27号, 1-3	
1984	桜島火山の研究	科研費自然災害特別研究「火山ガス測定による噴火予測に関する基礎研究」, 8-14	
1986	桜島火山活動の経過—1981, 1982年—	大型共同研究「第5回桜島火山の集中総合観測」, 1-4	
1986	第6回桜島火山集中総合観測結果概要	火山噴火予知連絡会会報, 第36号, 1-4	
1986	第5回桜島火山の集中総合観測の総括	大型共同研究「第5回桜島火山の集中総合観測」, 139-141	
1988	桜島火山活動の経過—1983年～1985年—	大型共同研究「第6回桜島火山の集中総合観測」, 1-6	
1988	第1回諏訪之瀬島火山の集中総合観測成果の概要	大型共同研究「第1回諏訪之瀬島火山の集中総合観測」, 51	
1988	第6回桜島火山の集中総合観測の総括	大型共同研究「第6回桜島火山の集中総合観測」, 135-137	
1989	桜島火山活動の経過—1986年～1988年—	大型共同研究「第7回桜島火山の集中総合観測」, 1-5	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1989	A Dialogue with Sakurajima Volcano	Proc. Kagoshima Int. Conf. on Volcanoes, 3-11	石原和弘・井口正人
1989	桜島火山観測所における最近の研究成果	大型共同研究「第7回桜島火山の集中総合観測」, 103-115	
1989	第7回桜島火山の集中総合観測の総括	大型共同研究「第7回桜島火山の集中総合観測」, 117-119	
1989	第7回桜島火山集中総合観測の概要	火山噴火予知連絡会会報, 第43号, 74-76	
1992	第8回桜島火山集中総合観測の概要	火山噴火予知連絡会会報, 第53号, 97-99	
1993	諏訪之瀬島火山活動の経過—1989年—	大型共同研究「第2会諏訪之瀬島火山の集中総合観測」, 3-11	石原和弘・井口正人
1993	第2回諏訪之瀬島火山の集中総合観測の総括	大型共同研究「第2回諏訪之瀬島火山の集中総合観測」, 101-104	
	<u>火山噴火予知に関する論文</u>		
1976	火山噴火予知に関する2・3の問題—桜島火山の場合—	京大防災研究所年報, 第19号A, 31-39	
1976	1976年5月桜島南岳山頂噴火活動の前駆的現象	第13回自然災害科学総合シンポジウム論文集, 京都, 245-246	
1978	桜島における噴火の前駆現象と予知	火山, 第2集, 第23号, 53-64	江頭庸夫・西 潔 石原和弘
1993	アナク・クラカタウの1992～93年噴火	火山, 第38号, 113-114	
	<u>火山災害の軽減に関する論文</u>		
1977	桜島における降下火山灰の堆積について	科研費自然災害特別研究「昭和51年6月豪雨による鹿児島県の土砂および土石流災害に関する調査研究報告」, 77-86	江頭庸夫・石原和弘・河原田礼次郎
1984	数値計算による1983年三宅島溶岩流の再現	京大防災研究所年報, 第27号B-1, 1-14	石原和弘・井口正人
1984	噴石の到達範囲の考察	桜島地域学術調査協議会調査研究報告, 68-78	井口正人

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1984	火山爆発により放出される火山岩塊・レキの到達距離	京大防災研究所年報, 第 27 号 B-1, 15-27	井口正人
1984	玄武岩質溶岩流のシミュレーション 1983 年三宅島溶岩流への適用	火山, 第 2 集, 第 29 号, S242-S252	石原和弘・井口正人
1984	1983 年三宅島噴火による阿古地区溶岩流の考察—溶岩流の simulation —	科研費自然災害特別研究「昭和 58 年 10 月 3 日三宅島噴火および災害に関する調査研究」, 191-198	石原和弘・井口正人
1985	桜島火山の溶岩流 (II) 大正溶岩流のシミュレーション	京大防災研究所年報, 第 28 号 B-1, 1-11	石原和弘・井口正人
1988	数値計算による 1986 年伊豆大島溶岩流の再現	火山, 第 2 集, 第 33 号, 伊豆大島噴火特集号, S64-S76	石原和弘・井口正人
1989	Numerical Simulation of Lava Flows at Sakurajima	Proc. Kagoshima Int. Conf. on Volcanoes, 479-482	K. Ishihara and M. Iguchi
1989	主要火山の防災対策	科研費重点領域「災害警告と避難行動に関する研究」, 92-100	田崎篤郎・勝井義雄・江頭庸夫
1989	1986 年伊豆大島溶岩流のシミュレーションの再検討—噴火中の地形変化の影響について—	京大防災研究所年報, 第 31 号 B-1, 1-13	石原和弘・井口正人
1989	溶岩流出と住民避難に関するシミュレーション	科研費重点領域「災害警告と避難行動に関する研究」, 113-118	江頭庸夫
1990	「国際防災十年の (IDNDR)」への提言—IAVCEI から—	火山, 第 2 集, 第 35 巻, 63-95	
1991	雲仙火山眉山の土地傾斜分布図の作成	科研費総合研究「雲仙火山眉山の地学・土質工学的環境の基礎的調査研究」, 42-47	石原和弘・井口正人
1991	桜島における縄文人の生活と火山災害	京大防災研究所年報, 第 34 号 A, 1-110	泉 沢良・小林哲夫 松井 章・諏訪 浩 江頭庸夫
1991	Hazard from volcanic ash	Nature, Vol. 354, 25	A. J. Prata, I. J. Barton R. W. Johnson and J. Kingwell
1994	Aviation Safety Measures for Ash Clouds in Japan and JAL's System for Eruptions at Volcano Sakurajima	Volcanic Ash Aviation Safety, Proc. Vol. 1st Int'l Symp., T. J. Casadevall (ed.), USGS Bull. No. 2074 213-219	S. Onodera

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1994	Infrasonic and seismic detection of explosive eruptions at Sakurajima volcano, Japan and the PEGASAS-VE early-warning system	Volcanic Ash Aviation Safety, Proc. Vol. 1st Int'l Symp., T. J. Casadevall (ed.), USGS Bull. No. 2074, 357-365	K. Ishihara and M. Tahira

編・著書

出版年	書名	出版社	共著者
1975	桜島火山の総合調査報告	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 文部省科学研究費自然災害特別研究
1977	第2回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 文部省科学研究費総合研究(A)「桜島における火山活動の火山物理学的、火山化学的総合調査研究」・大型共同研究「全国主要活火山の集中総合観測」
1980	第3回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 大型共同研究「全国主要活火山の集中総合観測」
1982	第4回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 大型共同研究「全国主要活火山の集中総合観測」
1985	現代科学百科ジュニアサイエンスカレンダー火山の噴火を予知する	岩波書店	分担執筆
1986	第5回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 大型共同研究「全国主要活火山の集中総合観測」
1988	第6回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 大型共同研究「全国主要活火山集中総合観測」
1988	第1回諏訪之瀬島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 大型共同研究「全国主要活火山の集中総合観測」
1988	桜島の活動の歴史—過去と現在—	日本消化器集団検診学会	
1989	第7回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山観測所	編者 大型共同研究「全国主要活火山の集中総合観測」
1989	Volcanic Hazard, IAVCEL Proc. Volcanology 1 A Preliminary Experiment on Automated Judgment of the Stages of Eruptive Activity Using Tiltmeter Records at Sakurajima, Japan	Springer-Verlag	J. H. Latter (ed.) K. Ishihara

出版年	書名	出版社	共著者
1990	Lava Flows and Domes, IAVCEL Proc. Volcanology 2 Numerical Simulation of Lava Flows on Some Volcanoes in Japan	Springer-Verlag	J. H. Fink (ed.) K. Ishihara and M. Iguchi
1990	火山学の基礎研究の動向 (資料編)	京大防災研究所・桜島火山 観測所	編者 文部省科学研究 費総合研究(A)「火山学 の基礎研究」
1990	火山学の基礎研究	日本火山学会	編者 火山, 第2集, 第34号, 特別号
1991	火山学の基礎研究の動向	京大防災研究所・桜島火山 観測所	編者 文部省科学研究 費総合研究(A)「火山学 の基礎研究」
1991	雲仙火山眉山の地学・土質工学的環境 の基礎的調査研究	京大防災研究所・桜島火山 観測所	編者 文部省科学研究費総合 研究(A)
1993	第2回諏訪之瀬島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山 観測所	編者 大型共同研究「全国主 要活火山の集中総合観 測」
1994	第8回桜島火山集中総合観測	京大防災研究所・桜島火山 観測所	編者 大型共同研究「全国主 要活火山の集中総合観 測」

解説・その他

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1958	地震観測における磁気テーブルの効果	日刊工業新聞技術ジャーナル, 466号	
1973	故吉川圭三博士の御業績をしのんで	京大防災研究所年報, 第16号A, 1-2	
1976	火山—桜島噴火の歴史とその活動予測について	アールダッシュェ	
1981	観測所設置の追憶—故吉川圭三教授—	京大防災研究所30年史	
1987	九州の活火山	第39回九州地区小学校長協議会研究大会鹿児島大会収録, 62-75	
1989	桜島の火山活動	ユニバック研究会, SYSTEM, No. 206, 46-51	
1989	特別講義“火山・桜島”	放送大学教育振興会(ビデオ)	
1991	桜島火山における噴火予知のあゆみ	京大防災研究所40年史, 350-351	



六車 熙教授

六 車 熙 教 授 略 歴

(学歴・職歴)

昭和5年10月23日	生まれる
25年3月	第八高等学校卒業
25年4月	京都大学工学部建築科（旧制）入学
28年3月	京都大学工学部建築科（旧制）卒業
28年4月	京都大学大学院研究奨学生工学研究科前期課程入学
31年3月	京都大学大学院研究奨学生工学研究科前期課程修了
31年4月	京都大学工学部講師 建築学教室勤務
36年4月	京都大学工学部助教授
37年2月	工学博士（京都大学）
40年1月	京都大学工学部教授 建築材料学講座担当
41年6月	建築学第二教室に配置替え 鉄筋コンクリート構造学講座担当
平成4年7月	京都大学防災研究所に配置替え 地盤震害部門担当
5年4月	京都大学体育指導センター所長（併任）
6年3月	停年退官
6年4月	京都大学名誉教授

(学会賞)

昭和37年5月	日本建築学会論文賞
50年5月	セメント協会論文賞
55年5月	プレストレストコンクリート技術協会論文賞
60年5月	日本材料学会論文賞
平成2年5月	高強度コンクリート国際会議特別賞
5年10月	国際プレストレストコンクリート連盟賞（FIPメダル）

**六車 照教授研究業績
論文**

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	プレストレストコンクリート部材の弾性設計法		
1953	PS コンクリート変断面梁の設計式について	日本建築学会研究報告 第24号	坂 静雄
1954	正負両方向の曲げモーメントを受けるPS コンクリート梁の設計式について	日本建築学会研究報告 第25号	坂 静雄
	Calculation of stress and design formula for the prestressed concrete section	京都大学工学研究所報告 第27号	S. Ban
	PS コンクリート梁の設計式について (その2・断面の設計)	日本建築学会研究報告 第27号	坂 静雄
1955	Genaues Verfahren zur Querschnitt-Bestimmung des Vorgespannten Betons	Proc. of the Symposium on Prestressed concrete and composite beams	S. Ban
1959	プレストレストコンクリート部材断面設計法に関する研究——方向の曲げモーメントをうける部材の場合	プレストレストコンクリート Vol. 1 No. 2	坂 静雄
	プレストレストコンクリート枕木の開発研究		
1955	丸棒ポストテンション型枕木の試作実験報告	京都大学工学研究彙報 第7輯	坂 静雄
	丸棒ポストテンション型まくら木の試作実験	セメントコンクリート No. 102	坂 静雄・岡田 清
	太径丸棒ポストテンション型PC 枕木の実験的研究	材料試験 Vol. 4 No. 26	坂 静雄・岡田 清
1956	太径丸棒ポストテンション型広軌用枕木の実験的研究	セメント技術年報 第10巻	坂 静雄・岡田 清
1957	HA-1 型 PC 枕木の静的破壊実験報告	セメント技術年報 第11巻	坂 静雄・小林 勇・岡田 清
1977	18年間の使用に耐えたアンボンドPC まくら木について	第17回PC 技術協会研究発表会講演概要集	
1954	コンクリート系部材の力学的性質 プレストレストコンクリート梁の曲げ剛性	日本建築学会研究報告 第30号	坂 静雄
1955	プレストレストコンクリートの亀裂荷重に対する理論的考察	セメント技術年報 第9巻	坂 静雄

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	プレストレストコンクリート梁の亀裂荷重について	材料と設計 Vol. 1 No. 4	坂 静雄・岡田 清
1956	φ25mm 丸棒ポストテンション型 PC 梁の実験的研究	日本建築学会論文報告集 第53号	坂 静雄・岡田 清
1957	鋼棒ポストテンション型 PC 構造の不静定架構えの応用に関する実験的研究	日本住宅公団昭和31年度研究報告	坂 静雄・中島泰一 河合三郎・角谷 保 永田憲夫
1958	各種プレストレストコンクリート緊張材の適用性に関する研究	セメントコンクリート No. 135	坂 静雄・松井克俊・ 山野俊一
1959	3/8 in. 7-wire strand 使用プレテンション型 PCT 型梁の破壊実験報告	セメント技術年報 第10巻	坂 静雄
	Experimental study on anchored pre-tensioned prestressed beams	京都大学工学研究所研究報告 第62巻	S. Ban
1960	アンカードプレテンション工法による PC 梁の実験的研究	セメント技術年報 第13巻	坂 静雄
1961	ポストテンション用ストランド束の定着装置に関する実験	セメント技術年報 第14号	坂 静雄
	打ち継ぎ目を持つ PC 梁の力学的性質に関する基礎的研究	セメント技術年報 第14号	坂 静雄・鈴木計夫
	高型強度異形鉄筋使用コンクリート梁の曲げ性状について	日本建築学会近畿支部昭和36年度研究発表会論文集	森田司郎・清水屋英雄
	デイビダーク式アンカームッター使用ポストテンション型 PC 梁の実験的研究	日本建築学会論文報告集 第69号	下伊豆隆三
	PC 及び RC 梁の曲げ破壊強度	日本建築学会論文報告集 第69号	森田司郎
1962	高強度異形鉄筋の利用に関する研究 (単筋ク形はりの曲げ破壊試験報告)	セメント技術年報 第15巻	坂 静雄・森田司郎・ 清水屋英雄
	打ち継ぎ目地の PC 部材におよぼす影響に関する研究 (せん断はり間に打ち継ぎ目のある場合)	セメント技術年報 第15巻	坂 静雄・富永 恵
	材令5年を経た PC はりの曲げ破壊実験	プレストレストコンクリート Vol. 4No. 5	
1963	PC 有孔ばりに関する研究—曲げスパンに円孔を有する場合—	セメント技術年報 第16巻	下伊豆隆三
	鉄筋コンクリート梁の荷重反復時の曲げ剛性	日本建築学会論文報告集 第89号	森田司郎・角 徹三

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1964	PC有孔はりに関する研究—せん断スパンに円孔を有する場合—	セメント技術年報 第16巻	鈴江俊晴
	PC有孔はりに関する研究—円孔周辺の補強方法基礎的研究—	セメント技術年報 第18巻	竹原麟之助・長 徹郎
1965	On the flexural rigidity of reinforced concrete beams	Memoirs of the Faculty of Engineering, Kyoto University, Vol. 27 Part 1	S. Morita
1966	人工軽量骨材コンクリートの利用に関する研究	セメント技術年報 第19巻	深田隆俊・前川溶洋
1967	SPIROLL Core Floor (PCプレキャスト有孔床板) のプレストレス導入と伝達長	セメント技術年報 第20巻	坂静雄・富永恵・岡本伸・吉村美津弘・深田隆俊・武尾敬之助
	SPIROLL Core Floor (PCプレキャスト有孔床板) の単体および組立一体床板の力学的性質	セメント技術年報 第20巻	坂静雄・富永恵・岡本伸・吉村美津弘・深田隆俊・武尾敬之助・土井明・河原清一郎
	SPIROLL Core Floor (PCプレキャスト有孔床板) の耐熱性能	セメント技術年報 第20巻	坂静雄・富永恵・岡本伸・吉村美津弘・深田隆俊・武尾敬之助
1969	載荷履歴をうける PC 単純はり	セメント技術年報 第22巻	富永 恵・高矢義忠
	高載荷履歴を受ける軽量 PC はりの変形と耐力	材料 第18巻第185号	富永 恵・高矢義忠 岸本茂規
	プレストレストコンクリートポールのすすめ	電気評論 第54巻 第6号	
	繰り返し超過荷重をうける PC 単純ばりの曲げ性質に関する基礎的研究	プレストレストコンクリート Vol. 11No. 3	富永 恵
1970	組立 PC 不静定はりの変形と耐力に関する研究	セメント技術年報第23巻	富永 恵・鄭日栄 高矢義忠
	鉄筋コンクリート曲げ材の最小鉄筋比	セメント技術年報 第23巻	岸本茂規
	高荷重履歴を受ける PC はりの変形と耐力—補強鉄筋の効果—	セメント技術年報 第23巻	富永 恵・高矢義忠
	偏心軸圧を受ける鉄筋コンクリート柱の靱性に関する研究	セメント技術年報 第23巻	渡辺史夫
	ひびわれを生じた鉄筋コンクリート部材の応力状態と変形に関する研究	セメント技術年報 第24巻	富田幸次郎
	高荷重履歴を受ける PC 連続ばりの崩壊過程	セメント技術年報 第24巻	富永 恵

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1972	地震荷重を受ける PC はり・柱 T 型接合域の緊張材付着性能とはりの弾塑性変形状に関する研究	セメント技術年報 第 26 巻	富永 恵・多田利正
1973	Analytical and experimental studies on the deformation evaluation of reinforced concrete columns under seismic forces	Proc. of the Symposium on Resistance and Ultimate Deformability of sturcture Acted on by Well Defined Repeated Loads	M. Tominaga・F. Watanabe
	Transient deformation behaviours of prestressed concrete beams under repeated over-load	Proc. of the Symposium on Resistance and Ultimate Deformability of Structure Acted on by Well Defined Repeated Loads	M. Tominaga・Y. Takaya・T. Tada
1977	プレストレストコンクリート曲げ材のモーメント曲率関係の数値解析 コンクリートの圧壊ひずみ	日本建築学会近畿支部昭和 52 年度研究報告集	永井栄治・岡本 猛
1974	鉄筋コンクリート断面破壊耐力計算用コンクリート最大縁ひずみについて On the extreme compressive strain of concrete for caluculating the ultimate strength of reinforced concrete section	セメント技術年報 第 28 巻 Proc. of the Symposium on Design and Safety of Reinforced Concrete Compression Members	田中進三 S. Tanaka
1975	鉄筋コンクリート断面の破壊時コンクリート圧縮縁ひずみに関する研究	材料 第 24 巻第 260 号	
1976	コンクリートの圧壊ひずみに関する研究 コンクリートの収縮・クリープとその影響	セメント技術年報 第 30 巻	永井栄治
1954	PS コンクリート梁の設計式について (その 3・緊張力減退について) PS コンクリート用高炭素鋼の塑性変形について (塑性変形機構と実験上誤られ易い点について)	日本建築学会研究報告 第 29 号 日本建築学会研究報告 第 26 号	坂 静雄 坂 静雄
1955	緊張力減退に関する理論的研究 プレストレストコンクリートの緊張力減退に関する理論的研究 プレストレストコンクリートの緊張力減退に関する理論的研究 (Unbonded Wire 使用の場合)	日本建築学会研究報告 第 31 号 日本建築学会論文集 第 51 号 日本建築学会研究報告 第 33 号	坂 静雄・岡田 清 坂 静雄・岡田 清 坂 静雄・岡田 清

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1957	Loss in prestress of post-tensioned members due to creep and shrinkage of concrete	京都大学工学研究報告 第7巻 第5号	S. Ban・K. Okada
1959	プレストレストコンクリート材の緊張力減退に関する研究(I)	日本建築学会論文報告集 第62号	坂 静雄
	載荷PC梁の緊張力減退に関する実験的研究	日本建築学会論文報告集 第63号	坂 静雄
1960	プレストレストコンクリート材の緊張力減退に関する研究(II)	日本建築学会論文報告集 第64号	坂 静雄
	コンクリートのクリープおよび乾燥収縮によるPC材のプレストレストコンクリート減退—近似理論解—	プレストレストコンクリート Vol. 2 No. 4	坂 静雄
	プレストレストコンクリート材の緊張力減退に関する—近似解	日本建築学会論文報告集 第66号	坂 静雄
	かた練りコンクリートの硬化収縮ひずみ	セメントコンクリート No. 166	坂 静雄
1961	かた練りコンクリートの硬化収縮ひずみ	セメント技術年報 第14巻	坂 静雄
	コンクリートの2次元クリープに関する理論的研究	日本建築学会論文報告集 第68号	坂 静雄
	コンクリートの2次元クリープに関する理論的研究(壁板の収縮応力解)	日本建築学会論文報告集 第69号	竹原麟之助
	PC部材のクリープ変形の近似解法(PC部材のクリープ係数について)	日本建築学会論文報告集 第69号	
1962	PC円形構造物のクリープ解析に関する基礎研究	PC技術協会第2回年次講演会概要集	
1963	Two-dimentional creep-deformation of concrete and its application to the creep stress analysis of prestressed concrete circular structures	Proc. of the IASS Symposium on Non-Classical Shell Problem	
1964	モルタル収縮ひびわれ試験におけるリング供試体について	セメント技術年報 第17巻	
	かた練りコンクリートのクリープ—材令1年までの結果—	セメント技術年報 第17巻	竹原麟之助
	Analysis of creep stresses in statically indeterminate prestressed concrete rigid frame	Proc. of the 14th Japan National Congress for Applied Mechanics	

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	かた練りコンクリートのクリープ—材令2年までの結果—	セメント技術年報 第18巻	竹原麟之助
1965	プレストレストコンクリート不静定架構のクリープ応力解析(1)	プレストレストコンクリート Vol. 7 No. 5	
	プレストレストコンクリート不静定架構のクリープ応力解析(2)	プレストレストコンクリート Vol. 7 No. 6	
1966	プレストレストコンクリート不静定架構のクリープ応力解析(3)	プレストレストコンクリート Vol. 8 No. 1	
	プレストレストコンクリート不静定架構のクリープ応力解析(4)	プレストレストコンクリート Vol. 8 No. 2	
	膨張ケツ岩人工骨材コンクリートの乾燥収縮	セメント技術年報 第19巻	深田隆俊
1967	PC 不静定ラーメンのクリープ応力略算法	セメント技術年報 第21巻	竹本 靖
1976	PC 鋼材レラクセーションのプレストレス減退におよぼす影響	日本建築学会昭和51年度大会学術講演梗概集 (構造)	
1989	コンクリートのクリープひずみに関する一考察	日本建築学会構造系論文報告集 第402号	渡辺誠一
1990	遅れ弾性ひずみおよびフローひずみ表示式を用いたPC部材のクリープ変形とクリープ係数	日本建築学会構造系論文報告集 第408号	渡辺誠一
1991	鋼—コンクリート複合構造部材クリープ係数について	日本建築学会構造系論文報告集 第429号	渡辺誠一
	PC 鋼材定着部応力と設計		
1957	鋼棒使用ポストテンション型PCの定着部応力に関する研究 (第1報: 2次元応力の場合)	日本建築学会論文報告集 第55号	坂 静雄・小垣善一・寺沢輝夫
	鋼棒使用ポストテンション型PCの定着部応力に関する研究 (第2報: 定着部材コンクリートの亀裂および破壊耐力)	日本建築学会論文報告集 第55号	坂 静雄・小垣善一・寺沢輝夫
1958	鋼棒使用ポストテンション型PCの定着部応力に関する研究 (第3報: 3次元応力の場合)	日本建築学会論文報告集 第55号	坂 静雄・寺沢輝夫・小垣善一
	Anchorage zone stress distribution in post-tensioned concrete members	Proc. of the World Conference on Prestressed Concrete	S. Ban・Y. Ogaki

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	ポストテンション型プレストレストコンクリートの定着端設計用割裂応力分布	セメントコンクリート No. 137	坂 静雄・寺沢輝夫 小垣善一
1959	デイビダーク工法の定着版効果に関する実験的研究	住友電気第 72 号	坂 静雄・鈴木計夫
1962	わが国慣用の各種 PC 定着装置の耐力試験（フレシネ式定着装置の場合）	日本建築学会論文報告集 第 77 号	坂 静雄・森田司郎 岡本 伸
1963	わが国慣用の各種 PC 定着装置の耐力試験（BBRV および阿部式定着装置の場合）	日本建築学会論文報告集 第 82 号	坂 静雄・森田司郎 岡本 伸
	局部荷重を受けるコンクリートの支圧強度に関する研究	プレストレストコンクリート Vol. 5 No. 5	岡本 伸
1964	局部荷重を受けるコンクリートの支圧強度に関する研究	セメント技術年報 第 17 巻	岡本 伸
	局部荷重を受けるコンクリートの支圧強度に関する実験的研究	セメント技術年報 第 18 巻	岡本 伸
	アンボンドプレストレストコンクリート		
1958	付着のない PC 梁の曲げ破壊耐力（付着のない PC 梁の力学的性質に関する研究Ⅰ）	日本建築学会論文報告集 第 60 号	坂 静雄
	付着のない PC 梁の曲げ破壊耐力（付着のない PC 梁の力学的性質に関する研究Ⅱ）	日本建築学会論文報告集 第 60 号	坂 静雄・中島泰一
1968	Unbonded PC 部材の利用に関する研究	日本建築学会近畿支部昭和 43 年度研究報告集（構造・材料・施工）	
1977	アンボンド PC はりの静力学的性質に関する実験的研究	日本建築学会近畿支部昭和 52 年度研究報告集	渡辺史夫・内藤行孝・ 新谷晃崇・川本保彦
	アンボンドプレストレストコンクリート（Ⅰ）	GBRC Vol. 2 No. 1	
	アンボンドプレストレストコンクリート（Ⅱ）	GBRC Vol. 2 No. 2	
	アンボンドプレストレストコンクリート（Ⅲ）	GBRC Vol. 2 No. 4	
1978	アンボンドプレストレストコンクリート（Ⅳ）	GBRC Vol. 3 No. 1	

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	アンボンドプレストレストコンクリート(V)	GBRC Vol. 3 No. 2	
	Study on low-cycle fatigue strength of post-tensioned unbonded prestressed concrete	プレストレストコンクリート Vol. 20 第8回FIP大会特集増刊号	
	アンボンドPC はりの曲げ破壊耐力に関する検討	日本建築学会近畿支部昭和53年度研究報告集(構造)	内藤行孝・新谷晃崇 松本 浩
1984	アンボンドPC 部材の曲げ終局耐力に関する研究	プレストレストコンクリート Vol. 26 No. 1	渡辺史夫・西山峰広
	アンボンドPC 不静定梁の力学的性質に関する研究	セメント技術年報 第38巻	渡辺史夫・西山峰広
1985	Study on the hysteretic retoring force characteristics of unbonded prestressed concrete	プレストレストコンクリート Vol. 27 第10回FIP大会特別増刊号	渡辺史夫・西山峰広
	アンボンドPC 不静定梁の力学的性質に関する基礎研究(緊張材を曲線配置とした場合)	セメント技術年報 第39巻	渡辺史夫・西山峰広
1986	アンボンドPC 不静定梁の力学的性質に関する研究	第8回コンクリート工学年次講演会論文集	渡辺史夫・西山峰広
	Behaviour of unbonded prestressed concrete beam in rigid frame	JCI Transactions Vol. 8	F. Watanabe・ M. Nishiyama
1988	On the unbonded prestressed concrete members in seismic structures	Proc. of the 9th WCEE, Vol. 8	M. Nishiyama・ F. Watanabe
	Hysteretic restoring force characteristics of unbonded prestressed concrete framed structure under earthquake load	Proc. of Pacific Concrete Conference, Vol. 1	F. Watanabe・ M. Nishiyama
	パーシャルプレストレストコンクリート		
1980	Fundamental study on the behaviour of Class 3 partially prestressed concrete beam	JCI Transactions Vol. 2	F. Watanabe・ S. Fukai・T. Nasu
1982	On the fundamental behaviours of partially prestressed concrete beam under monotonic and cyclic high-over repeated load	プレストレストコンクリート Vol. 24 第9回FIP大会特別増刊号	渡辺史夫・那須 正
1983	高強度コンクリートを用いたⅢ種プレストレストコンクリート部材に関する研究	第5回コンクリート工学年次講演会講演論文集	渡辺史夫・小倉正恒 紺谷 修

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	プレストレストコンクリート鉄筋コンクリートはりのせん断抵抗挙動に関する実験研究	第 5 回コンクリート工学年次講演会講演論文集	渡辺史夫・藤井正則
	コンクリート系部材の靱性とその改善		
1977	角スパイラルフープの補強効果に関する実験的研究	セメント技術年報 第 31 号	田中仁史・桜井和夫
1978	コンクリートの曲げ圧縮限界歪の改善に関する研究	第 24 回構造工学シンポジウム「構造の非線形問題」論文集	渡辺史夫・田中仁史
1979	横補強筋によるコンクリートの圧縮じん性改善	コンクリート工学 Vol. 17 No. 2	
	Effect on confinement by high yield strength hoop reinforcement upon the compressive ductility of concrete	Proc. of the 21th Japan Congress on Materials Research	F. Watanabe・ H. Tanaka・K. Sakurai ・ E. Nakamura
	Study on improving the flexural and shear deformation capacity of concrete member by using lateral confining reinforcement with high yield strength	Proc. of the AICAP-CEB Symposium on Structural Concrete under Seismic Actions	F. Watanabe・ H. Tanaka・K. Sakurai ・ E. Nakamura
1980	横拘束コンクリートの応力ひずみ曲線のモデル化	セメント技術年報 第 34 巻	渡辺史夫・勝田庄二・ 田中仁史
1980	Improving the flexural ductility of prestressed concrete beams by using the lateral hoop reinforcement of high yield strength	JCI Transactions Vol. 2	F. Watanabe・ H. Tanaka・S. Katsuda ・ T. Iwashimizu
1982	Improving the flexural ductility of prestressed concrete by using the high yield strength lateral hoop reinforcement	プレストレストコンクリート Vol. 24 第 9 回 FIP 大会特集増刊号	渡辺史夫・田中仁史
1983	横補強による高強度コンクリートの靱性改善に関する研究	第 5 回コンクリート工学年次講演会講演論文集	渡辺史夫・岩清水隆 光枝 良
	横補強コンクリートによるアンボンド PC 部材の靱性改善	セメント技術年報 第 37 巻	渡辺史夫・西川公敏・ 幅伊佐男・清水良成
1985	超高強度 PC くの曲げ靱性改善	第 7 回コンクリート工学年次講演会講演論文集	渡辺史夫・幅伊佐男・ 浅井政宏
1986	Improving the flexural ductility of ultra-high strength prestressed spun concrete piles by using high yield strength confining reinforcement	Proc. of the 10th International Congress of the FIP, Vol. 1	M. Nishiyama F. Watanabe

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1987	高一様伸び鋼棒と横拘束併用による高強度 PC くいの曲げ靱性改善	コンクリート工学年次講演会講演論文集第9巻第2号	西山峰広・渡辺史夫
	高強度 PC くい曲げ靱性設計	コンクリート工学年次講演会講演論文集 第9巻第2号	渡辺史夫・西山峰広
	Effect of high uniform elongation in prestressing tendon upon the flexural ductility improving of prestressed concrete beam	Proc. of the 10th International Congress of the FIP, Vol. 1	M. Nishiyama・F. Watanabe
	Further improving in flexural ductility of confined pretensioned spun high strength concrete piles by combined use of high uniform elongation prestressed steel bars and lateral confining of concrete	JCI Transactions, Vol. 9	M. Nishiyama・F. Watanabe
	Flexural ductility design of pretensioned spun high strength concrete pile	JCI Transactions, Vol 9	F. Watanabe・M. Nishiyama
	Improving the flexural ductility of pretensioned high strength spun concrete piles by lateral confining of concrete	Proc. of Pacific Conference on Earthquake Engineering (Wairakei, New Zealand)	F. Watanabe・M. Nishiyama
1988	高強度コンクリートの鉄筋コンクリート靱性柱への適用に関する研究	コンクリート工学年次論文報告集 Vol. 11-2	渡辺史夫・小室 努
	横拘束によるコンクリート系部材の曲げ靱性改善	コンクリート構造物の靱性とその評価法に関するコロキウム論文集	西山峰広・渡辺史夫
	Development of ductile pretensioned high strength spun concrete piles and ductility design criteria	Proc. of the 31st Japan Congress on Materials Research	F. Watanabe・M. Nishiyama
	Curvature ductility design of reinforced and prestressed concrete members	Proc. of the 9th WCEE, Vol. 8	F. Watanabe・M. Nishiyama
1991	高強度コンクリートと横拘束筋を用いた鉄筋コンクリート柱の力学性状	コンクリート工学年次講演会論文論文報告集 第13巻第2号	西山峰広・藤村 搖 渡辺史夫
	高強度コンクリートの靱性改善	第2回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	渡辺史夫・西山峰広
1991	Ductility evaluation of concrete columns with normal and high strength concrete	Proc. of Pacific Conference on Earthquake Engineering (Auckland, New Zealand)	F. Watanabe・M. Nishiyama

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
	Ductile behaviour of high-strength concrete columns confined by high-strength transverse reinforcement	Proc. of ACI International Conference on Evaluation and Rehabilitation of Concrete Structures and Innovations in Design, Vol. 1	F. Watanabe ・ M. Nishiyama ・ H. Tanaka
1992	高強度コンクリートの応力ひずみ曲線モデル	第3回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	渡辺史夫・西山峰広 福島 出・福本義之
1993	超高強度コンクリートを用いたRC柱の曲げ強度と靱性	日本建築学会構造系論文報告集 第446号	渡辺史夫・西山峰広
	Stress-strain curve model for concrete with a wide-range of compressive strength	Proc. of the 3rd Symposium on Utilization of high-strength concrete (Lillehammer), Vol. 1	F. Watanabe ・ M. Nishiyama
	Axial loading tests on high-strength concrete prisms confined by ordinary and high-strength steel	Proc. of the 3rd Symposium on Utilization of high strength concrete (Lillehammer), Vol. 1	M. Nishiyama ・ I. Fukushima ・ F. Watanabe
	コンクリート・コンクリート系部材の水中疲労		
1982	水中でのコンクリート系部材の低サイクル疲労	セメント技術年報 第36巻	張耀凱・安井雅明
1983	Study on the low-cycle fatigue behaviour of concrete members under submerged condition	Proc. of the 26th Japan Congress on Materials Research	
1984	On the low-cycle compressive fatigue behaviour of concrete under submerged condition	Proc. of the 27th Japan Congress on Materials Research	F. Watanabe
1985	水中でのコンクリート圧縮疲労とAE計測	セメント技術年報 第39巻	渡辺史夫・田淵勝道
1986	正負曲げを受けるコンクリート系部材の水中での低サイクル疲労	セメント技術年報 第40巻	渡辺史夫・貫上卓哉
1987	On the low-cycle fatigue behaviours of concrete and concrete members under submerged condition	Proc. of the Symposium on Utilization of High-Strength Concrete (Stavanger)	F. Watanabe ・ M. Nishiyama
1989	Low-cycle Fatigue Behaviours of plain concrete and concrete members under submerged condition	Proc. of the Symposium on International Experience with Durability of Concrete in Marine environment	
	プレストレストコンクリートくい		

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1967	PC くい断面の力学的性質について	材料 第16巻 第167号	富田幸次郎
	PC くいの有効プレストレス力測定方法について	材料 第16巻 第167号	
	PC くい断面の力学的性質に関する理論的研究	セメント技術年報 第21巻	
1968	PC くい溶接継手部の変形性能に関する研究	プレストレストコンクリート Vol. 10 No. 3	富田幸次郎
1969	PC 継ぐいの変形性能に関する研究	セメント技術年報 第22号	富田幸次郎
1970	PC くい溶接継ぎ手に関する実験的研究	セメント技術年報 第23号	富田幸次郎
	PC くいシートパイルへの応用に関する研究	セメント技術年報 第24号	宇都一馬・内山勝麗
1971	開放シュー PC クイ先端部のたて割れに関する実験的考察	土と基礎 第19巻 第5号	
	PC くい新溶接継手の開発	日本建築学会近畿支部昭和46年度研究報告集（構造・材料・施工）	
	PC くいシートパイルへの応用に関する研究—シャーキーせん断耐力および応力伝達性能について—	セメント技術年報 第25巻	宇都一馬・内山勝麗
1973	開放くい先端部たて割れ耐力について	日本建築学会近畿支部昭和48年度研究報告集（構造Ⅰ）	
1974	Development of the new method of retaining wall construction with precast prestressed concrete bearing pile units	プレストレストコンクリート Vol. 16 第7回FIP大会特集増刊号	
1977	超高度 PC くい改良に関する研究	日本建築学会近畿支部昭和52年度研究報告集	宇都一馬・内山勝麗
1980	2方向漸増繰返し曲げを受ける超高度 PC くい力学的性質に関する実験的研究	GBRC Vol. 14 No. 4	
1982	Development of the pretensioned prestressed spun concrete pile by using the steam-cured ultra-high strength concrete	プレストレストコンクリート Vol. 20 第9回FIP大会特集増刊号	
	鋼とコンクリートの付着		S. Ban・S. Morita
1960	Study on bond characteristics of 7-wire strand at prestress transfer	京都大学工学研究所研究報告 第10巻 第3号	

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1963	高強度異形鉄筋の利用に関する研究—はりの曲げキレツについて	セメント技術年報 第16巻	森田司郎
	鉄筋コンクリート梁の変形ときれつ	日本建築学会論文報告集 第90号	森田司郎
1967	鋼とコンクリートの付着に関する基礎的研究 (I 付着応力分布について)-I	日本建築学会論文報告集 第131号	森田司郎・富田幸次郎
	鋼とコンクリートの付着に関する基礎的研究 (I 付着応力分布について)-II	日本建築学会論文報告集 第132号	森田司郎・富田幸次郎
	鋼とコンクリートの付着に関する基礎的研究 (II 鉄筋コンクリート引張材の変形について)	日本建築学会論文報告集 第134号	森田司郎
	鋼とコンクリートの付着に関する基礎的研究 (III 引抜試験について)	日本建築学会論文報告集 第139号	森田司郎
	コンクリート系部材のせん断問題		
1972	鉄筋コンクリート柱のせん断耐力と変形機構—くり返し載荷を受ける場合—	セメント技術年報 第26巻	富永 恵・渡辺史夫
1978	鉄筋コンクリート柱のせん断力伝達に関する実験的研究	セメント技術年報 第32巻	村上 誠・渡辺史夫 西村 章
1979	鉄筋コンクリート柱のせん断力伝達機構に関する研究—繰返しせん断力を受ける場合—	セメント技術年報 第33巻	渡辺史夫・河野恭平 辻本哲也
1980	新試験法による鉄筋コンクリート柱のせん断実験	セメント技術年報 第34巻	渡辺史夫・辻本哲也・河野恭平
	Study on usability of high yield strength steel as the shear reinforcement of reinforced concrete column	Proc. of the 23rd Japan National Congress on Materials Research	F. Watanabe T. Tsujimoto K. Kohno
1981	鉄筋コンクリート柱におけるせん断補強原理に関する研究	セメント技術年報 第35巻	渡辺史夫・河野恭平・芦田公伸
1983	鉄筋コンクリート柱のせん断抵抗機構に関する研究—その1 せん断ひびわれの発生とせん断補強筋の補強効果—	日本建築学会論文報告集 第332号	渡辺史夫
1984	鉄筋コンクリート柱のせん断抵抗機構に関する研究—その2 付着割裂破壊におけるせん断補強筋の効果—	日本建築学会論文報告集 第341号	渡辺史夫
1985	Strength evaluation of R/C column failing in shear	JCI Transactions Vol. 7	F. Watanabe
	鉄筋コンクリート柱におけるせん断耐力の評価	日本建築学会近畿支部昭和60年度研究報告集 (構造)	渡辺史夫

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1987	曲げとせん断に受ける PC パイルの耐力評価に関する研究	コンクリート工学年次講演会論文集 第9回 第2号	渡辺史夫・西山峰広
1993	Strength and ductility of high strength concrete beams subjected to combined bending and shear 柱—梁接合部の耐震性能	Proc. of the 3rd Symposium on Utilization of high-Strength Concrete (Lillehammer)	F. Watanabe・ M. Nishiyama
1989	プレストレストコンクリート造外部梁・柱接合部の設計法に関する研究	コンクリート工学年次講演会論文集 第11巻 第2号	西山峰広・西崎隆氏・ 渡辺史夫
1991	プレストレスによる柱梁接合部の耐震性能改善 プレストレストコンクリート梁柱ト型骨組の履歴復元力特性と接合部せん断性状に関する実験研究	プレストレスの原理・技術の有効利用に関するJCIシンポジウム論文集 日本建築学会構造系論文報告集 No. 429	西山峰広・大平 真 渡辺史夫 西山峰広・渡辺史夫
	Seismic performance of prestressed concrete beam-column joint assemblage 地震応答と耐震設計	Proc. of Pacific Conference on Earthquake Engineering (Auckland, New Zealand)	M. Nishiyama・ F. Watanabe
1992	A consistent seismic design concept of prestressed concrete buildings 層降伏型 PC 梁柱骨組の耐震設計	Proc. of the 10th WCEE, Vol. 8 第3回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	F. Watanabe・ M. Nishiyama・H. Kato 西山峰広・加藤博人・ 太田義弘
1993	PC, PPC 及び RC 骨組の地震応答性状 Seismic response of prestressed, partially prestressed and reinforced concrete buiding frames	コンクリート工学年次論文報告集 第15巻 第2号 Proc. of the 1993 FIP Symposium on the Modern Prestressed Techniques and Their Applications, Vol. 1	西山峰広・渡辺史夫 M. Nishiyama・ Y. Ohta・F. Watanabe
	高強度コンクリート		
1973	高強度コンクリートの力学的性質に関する研究	セメント技術年報第27巻	田中進三
1981	超高強度コンクリートの力学的諸性質	セメント技術年報 第35巻	張耀凱・安井雅明
1982	高強度コンクリートの力学的諸性質	セメントコンクリート No. 425	
1985	超ち密超高強度コンクリート—圧縮強度 2000kgf/cm ² への挑戦—	GBRC Vol. 10 No. 4	

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1989	高強度および超高強度コンクリート	材料 第38巻 第431号	
1993	High strength concrete — An overview of the research in Kyoto University その他の研究	Proc. of the 3rd Beijing International Symposium on Cement and concrete, Vol. 1	F. Watanabe・ M. Nishiyama
1954	ウェットスクリーニングによるコンクリート強度の判定	セメント技術年報 第8巻	坂 静雄
1957	最近5ケ年における普通ポルトランドセメントの強度	セメント技術年報 第11巻	坂 静雄・安井久三
1958	京都市におけるアパートの現場打コンクリートの強度	材料試験 第7巻 第63号	坂 静雄・安井久三
	京都市におけるアパートの現場打コンクリートの強度	セメント技術年報 第12巻	坂 静雄・安井久三
1959	Static and dynamic moduli of elasticity of concrete	Proc. of the 2nd Japan Congress on Testing Materials	S. Ban・K. Yasui
1960	市販セメントの長期強度	セメント技術年報 第13巻	坂 静雄・安井久三
	Behaviour of plain concrete under dynamic loading with straining rate comparable to earthquake	Proc. of the 2nd World Conference on Earthquake Engineering	S. Ban
1961	現場打ちコンクリートの動弾性係数と圧縮強度	セメント技術年報 第14号	坂 静雄・安井久三
1962	シュミットハンマーによるかた練りコンクリート強度判定	セメント技術年報 第15巻	坂 静雄・安井久三
1964	市販セメントの長期強度	セメント技術年報 第17巻	坂静雄・安井久三
	人工軽量骨材コンクリートの強度理論に関する研究	日本ACI構造用軽量コンクリートシンポジウム論文集	深田隆俊
1968	On the expansion-shrinkage characteristics of expansive cement	Proc. of the 11th Japan Congress on Materials Research	
1969	Basic characteristics of expansive cement concrete	Proc. of the 12th Japan Congress on Materials Research	S. Okamoto
1970	CSA 混入率差によるコンクリートの打ち継ぎ部曲げ引張り強度について	セメント技術年報 第23巻	富永 恵・志智靖夫
1973	市販セメントの長期強度	セメントコンクリート No. 319	坂 静雄・安井久三
1974	膨張セメントコンクリート	コンクリートジャーナル Vol. 12 No. 11	

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1987	Corrosion of prestressing steel bars in pretensioned spun concrete piles containing various kinds of concrete admixture	Proc. of the Symposium on Corrosion '87 Paper No. 124	
1993	Development of new corrosion protection prestressing strand	Proc. of the 1993 FIP Symposium on Modern Prestressing Techniques and Their Applications, Vol. 3	K. Tanaka・ S. Kikuchi・I. Minami
	論説・討議・展望・解説		
1958	アメリカの PC 構造の展望	建築と社会 第 39 輯 2 号	坂 静雄
1959	プレストレストコンクリートに関する国内文献	建築と社会 第 40 輯 2 号	
	ダブル T スラブの使用法	プレストレストコンクリート Vol. 1 No. 3	鈴木計夫
1961	上前・長田・松野 3 氏の「デイビダーク工法を施工して」に対する私見 (その 1)	プレストレストコンクリート Vol. 3 No. 1	坂 静雄
1961	上前・長田・松野 3 氏の「デイビダーク工法を施工して」に対する私見 (その 2)	プレストレストコンクリート Vol. 3 No. 2	坂 静雄
	昭和 36 年度改訂・土木学会プレストレストコンクリート設計施工指針に対する私見	プレストレストコンクリート Vol. 3 No. 6	中野清司・本岡順二郎
1962	PC 断面の耐震設計について—上前・長田・松野 3 氏の討議に関して—	プレストレストコンクリート Vol. 4 No. 4	坂 静雄
1966	PC 構造物の耐震性と耐火性	プレストレストコンクリートの最近の進歩に関する土木学会関西支部講習会テキスト	
1968	〔討論〕基礎クイの径長さ比に関する基礎研究 (その 1・その 2) (未永保美他 2 名著)	日本建築学会論文報告集 第 152 号	富田幸次郎
	PC くい	窯業データブック'69	
1970	PC くいの品質の現状と問題点	工業と製品 第 48 号別冊	
1976	『略記・略称・符牒』雑考	セメントコンクリート No. 348	
1977	第 12 回 New Zealand PCI 年次大会および 1976 年 FIP Sydney Symposia に出席して (I)	プレストレストコンクリート Vol. 19 No. 2	

発表年	題 名	発 表 誌 名	共 著 者
1977	第12回 New Zealand PCI 年次大会および1976年 FIP Sydney Symposia に出席して(Ⅱ)	プレストレストコンクリート Vol. 19 No. 6	
1978	セメント・コンクリート界への提言— —学徒の放言	セメントコンクリート No. 375	
	コンクリート系構造物の設計法	建築雑誌 No. 1136	
	プレストレストコンクリートの材料・ 施工の進歩—プレストレッシング材—	コンクリート工学 Vol. 16 No. 6	
1979	耐震設計・海洋構造物・建築構造	プレストレストコンクリート Vol. 21 No. 1	
1980	コンクリート建築構造物の現状と展望	コンクリート工学 Vol. 18 No. 11	
	アンボンドプレストレストコンクリート 構造とプレストレスト鉄筋コンクリート 構造—その問題点と展望—	プレストレストコンクリート Vol. 22 No. 6	
1982	Seismic behaviour of prestressed concrete buildings—A review of research recently carried out in Japan—	Proc. of the 9th FIP Congress, Vol. 2	
1983	コンクリートは生きもの	GBRC Vol. 8 No. 2	
1985	発展途上国への教育活動に思う	コンクリート工学 Vol. 23 No. 2	
1987	1987年腐食シンポジアに出席して	コンクリート工学 Vol. 25 No. 6	
1987	建築構造物とパーシャルプレストレストコンクリート	コンクリート工学 Vol. 25 No. 7	
	コンクリートの活性化	セメントコンクリート No. 486	
1990	コンクリート系構造物の耐震構造工学—私の研究回顧—	コンクリート工学 Vol. 28 No. 9	
	PC技術の応用—建築構造物への利用と問題点—	プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集	
1991	構造工学研究に思う	建築雑誌 No. 1309	
1993	Development of Prestressed Concrete Buildings in Japan	Proc. of the 1993 FIP Symposium on Modern Prestressing Techniques and Their Applications, Vol. 1	

著 書

出版年	書 名	出 版 社	共 著 者
1961	プレストレストコンクリート	朝倉書店	分担執筆
1963	プレストレストコンクリート (建築構造講座第8巻)	コロナ社	
1965	コンクリート工学ハンドブック	朝倉書店	分担執筆
1969	コンクリート用化学混和剤	(社)日本材料学会	分担執筆
1980	建設材料実験	(社)日本材料学会	編集および分担執筆
1981	新版コンクリート工学ハンドブック	朝倉書店	編集および分担執筆